

報告第 7 号

公益財団法人調布ゆうあい福祉公社の経営状況について

地方自治法第243条の3第2項の規定により、公益財団法人調布ゆうあい福祉公社の令和元年度収支決算及び令和2年度事業計画を別紙のとおり提出する。

令和 2 年 6 月 5 日

調布市長 長 友 貴 樹

令和元年度決算報告書及び
令和2年度事業計画

公益財団法人 調布ゆうあい福祉公社

目 次

| | |
|-------------------------------|----|
| 令和元年度公益財団法人調布ゆうあい福祉公社事業報告 | 1 |
| 1 会社の現状 | 1 |
| 2 令和元年度の振り返り | 1 |
| (1) 法人運営 | 1 |
| ア 健全な公社経営 | 1 |
| イ 運営体制の強化・整備 | 2 |
| ウ 施設改修の計画・準備 | 2 |
| (2) 事業運営 | 3 |
| ア 介護予防の取組 | 3 |
| イ 地域の福祉人材の発掘・育成に向けた研修の充実 | 3 |
| ウ 認知症当事者と家族介護者支援の拡充 | 3 |
| エ 医療介護連携の推進 | 4 |
| オ 地域共生社会の推進 | 4 |
| 3 重点プロジェクト | 4 |
| (1) ケースカンファレンス（事例検討会）の推進 | 4 |
| (2) だれでもカフェ（認知症カフェ）の充実 | 5 |
| (3) 先駆的な家族介護者向け支援の創出 | 5 |
| (4) 調査研究開発の推進 | 6 |
| (5) 福祉人材の育成・発掘に向けた研修の充実 | 7 |
| 4 実施事業 | 8 |
| (1) 住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充 | 8 |
| ア 有償在宅福祉サービス事業 | 8 |
| イ 生活支援コーディネート事業「ちょこつとさん」 | 12 |
| ウ 在宅福祉サービスに関する相談事業 | 13 |
| (2) 認知症施策の推進－認知症当事者とその家族への支援－ | 14 |
| ア 認知症サポーター養成講座事業 | 14 |
| イ 家族介護者支援事業 | 14 |
| (3) フォーマルサービスの充実 | 16 |
| ア 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業 | 16 |
| イ 調布市地域包括支援センターゆうあい事業 | 19 |
| ウ 軽度生活援助事業 | 25 |
| (4) 介護保険事業（自主事業）による自立支援の推進 | 26 |
| ア 訪問介護事業，障害者訪問介護事業 | 26 |
| イ 居宅介護支援事業，介護保険要介護認定調査事業 | 27 |
| ウ デイサービスぶちぼあん事業 | 28 |
| (5) 公益法人として先駆的な役割を果たすための事業の推進 | 30 |
| ア 普及啓発事業 | 30 |
| イ 人材育成事業 | 33 |
| ウ 調査研究開発事業 | 35 |

- (6) 健全な公社運営 36
 - ア 法人運営及び組織体制の強化・充実 36
 - イ 自主的, 自立的経営に向けた財政基盤の強化 38
- 5 その他の報告事項 39
 - (1) 役員等及び会議に関する事項 39
 - (2) 公社外部委員会等一覧表及び実習生受入実績 41
 - (3) 職員研修の実績 42
 - (4) 事業報告書附属明細書について 46
- 貸借対照表 47
- 正味財産増減計算書 48
- 財産目録 55
- 監査報告書 57
- 収支計算書 58

- 令和2年度公益財団法人調布ゆうあい福祉公社事業計画 61**
- 公益財団法人調布ゆうあい福祉公社 理念 61
- 公社のビジョン 61
- 1 令和元年度の振り返りと課題 61
- 2 運営方針 63
 - (1) 法人運営 63
 - ア 健全な公社経営 63
 - イ 運営体制の強化・整備 64
 - ウ 施設改修の計画・準備 64
 - (2) 事業運営 64
 - ア 介護予防の取組み 64
 - イ 地域の福祉人材の発掘・育成に向けた研修の実施 64
 - ウ 認知症当事者と家族介護者支援の拡充 64
 - エ 医療介護連携の推進 65
 - オ 地域共生社会の推進 65
- 3 重点プロジェクト 66
 - (1) ケースカンファレンス（事例検討会）の推進 66
 - (2) だれでもカフェ（認知症カフェ）の充実 66
 - (3) 先駆的な家族介護者向け支援の創出 67
 - ア 家族介護者向け介護技術講座 67
 - イ ホームヘルパー出張派遣 67
 - (4) 調査研究開発の推進 67
 - ア 職員による事業提案 67
 - イ 実証研究調査 67

| | |
|-------------------------------|----|
| (5) 福祉人材の育成・発掘に向けた研修の充実 | 68 |
| 4 実施事業 | 69 |
| (1) 住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充 | 69 |
| ア 有償在宅福祉サービス事業 | 69 |
| イ 生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」 | 70 |
| ウ 在宅福祉サービスに関する相談事業 | 70 |
| (2) 認知症施策の推進－認知症当事者とその家族への支援 | 71 |
| ア 認知症サポーター養成講座事業 | 71 |
| イ 家族介護者支援事業 | 72 |
| (3) フォーマルサービスの充実 | 73 |
| ア 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業 | 73 |
| イ 調布市地域包括支援センターゆうあい事業 | 73 |
| ウ 軽度生活援助事業 | 75 |
| (4) 介護保険事業（自主事業）による自立支援の推進 | 75 |
| ア 訪問介護事業，障害者訪問介護事業 | 75 |
| イ 居宅介護支援事業，介護保険要介護認定調査事業 | 76 |
| ウ デイサービスぷちぼあん事業 | 77 |
| (5) 公益法人として先駆的な役割を果たすための事業の推進 | 78 |
| ア 普及啓発事業 | 78 |
| イ 人材育成事業 | 80 |
| ウ 調査研究開発事業 | 81 |
| (6) 健全な公社運営 | 82 |
| ア 法人運営及び組織体制の強化・充実 | 82 |
| イ 自主的，自立的経営に向けた財政基盤の強化 | 83 |
| 収支予算書 | 85 |

令和元年度公益財団法人調布ゆうあい福祉公社事業報告

1 公社の現状

平成30年に、設立30周年を迎えた公益財団法人調布ゆうあい福祉公社（以下「公社」という）ですが、超高齢化の進展や単身高齢者の急増等、設立当時とは劇的に変貌した社会情勢のなかで、組織として「市民相互の助け合いと、自立支援のための質の高いサービス提供を通じて、あたたかい地域づくりを目指す」の理念を掲げ、その役割は重要性を増しています。

公社の理念は、国の掲げる地域共生社会の実現に通じるもので、30年の時を経て、いささかも色褪せるものではありません。

しかしながら、度重なる介護保険報酬等の改定や雇用情勢の変転、また労働人口の減少から高齢者が労働力として期待される社会の出現等の要因から、公社を取り巻く環境は、設立当時とは大きく異なり、混とんとしています。

一時は、公社もそうした荒波を受け、収支のバランスを欠いた時期もありましたが、現在はその教訓から学び、収支バランスについては適切な均衡を保っています。しかし一方で、事業所のスペースや人力的な限界、また、恒常化しつつある職員の欠員や協力会員の不足等の要因から、事業規模の拡大を図ることが難しいといった課題も抱えています。

調布市は、令和3年4月から地域包括支援センター事業を、改編した現況の福祉圏域に合わせて展開するために、令和元年度に、地域包括支援センター事業受託事業者決定のプロポーザル審査を実施しました。併せて、各福祉圏域に地域福祉コーディネーターを配置するなど、8つの福祉圏域を強く意識した福祉施策の展開を鮮明にしています。

一方、現下の最重要課題は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止です。

本年1月頃、中国で流行の兆しが見え始めてから、わずか2カ月余で世界中を席卷し、未だその猛威に衰えの気配は窺えない状況です。公社でも、2・3月には、改めて衛生管理の徹底に取り組むとともに、人を集める事業を中止しました。さらに現在は、4月7日に発せられた国の緊急事態宣言を受けて、サービスを利用されておられる方々や協力会員の生活や生命を守る観点から、今後の事業展開を検討している最中です。これまで、誰も経験をしたことのない未曾有の事態ではありますが、職員一丸で乗り切って参ります。

令和2年度は、第2次中期計画の中間点に当たり、前半3年度を振り返っての後半3年度の計画修正等を行う予定ですが、そのなかで、前述の現状を踏まえた今後の公社の事業展開の方向性についても、検討をして参ります。

2 令和元年度の振り返り

(1) 法人運営

ア 健全な公社経営

公社が展開する事業は、その財源が調布市からの補助金によるもの、委託料によるもの、また、自主財源によるものと、大きく3つの種別に分類されます。このうち補助金と委託料による事業については、毎年度、予算の範囲内で事業を満了し、精算を行っています。

かつて公社は、入間町地域密着型認知症デイサービスぷちぼあん事業、居宅支援事業、並びに訪問介護事業の自主3事業総体で、赤字決算が複数年続いた時期がありました。幸い、その後の経営努力で収支は改善し、近年は自主事業においても継続して安定した経営を維持し、令和元年度も黒字決算を計上しました。その内容ですが、入間町地域密着型認知症デイサービスぷちぼあん事業と訪問介護事業では、年度を通じて職員が充足しなかったことから、合算で黒字決算となったものの、昨年と比較して事業規模は縮小しました。居宅支援事業では、特定事業所加算を取り下げたことから、大幅な減収となり、事業単体では赤字決算となりました。この結果、自主三事業総体での事業規模は、前年度より縮小しましたが、収支は黒字決算を維持しました。

引き続き公社経営を健全に保つために、事業展開に必要な人員の確保や、特定事業所加算の再取得に努めて参ります。

イ 運営体制の強化・整備

令和元年度は、年度を通じて、公社のいずれかの係で常勤・非常勤を問わず、職員の欠員状況が発生するなど、近年、日本の社会全体が抱える課題でもある「働き手の不足」、「離職者の増加」が、公社においても顕著になった年度でした。これにより、通常の業務が滞ることはなかったものの、規模の縮小等を余儀なくされた事業が出るなど、影響は少なくありませんでした。

協力会員の確保についても同様に、難しい状況が続き、食事サービス・ホームヘルプサービスについては、年度を通して担い手の確保に追われた年度となりました。人材の確保と育成については、現況の社会情勢や雇用情勢を鑑みると、今後、公社が最優先に取り組むべき課題です。国が進める働き方改革への対応では、時間外の縮減と年次有給休暇の取得については、組織的な取組を行い、目標を達成しました。同一労働同一賃金については、様々な観点から公社における課題や改善すべき問題点等の洗い出しを行いました。これを受け、令和2年度は、職種や職層に応じた職能要件の整備を目指して参ります。

令和元年度は、管理職を対象として試験的に人事評価制度を導入しました。令和2年度は、これを検証するとともに、係長職以下の正規職員にも、対象を広げる予定です。

調布市の福祉圏域の改編に伴い、令和元年度に実施された令和3年4月からの地域包括支援センター事業受託事業者を決定するプロポーザル審査では、公社の担当する事業エリアの一部変更が決定しました。令和2年度は、これを見据え着実に準備を進めて参ります。

ウ 施設改修の計画・準備

課題であった浴室等の施設改修については、調布市と協議を重ねた結果、令和元年度の予算措置ができませんでしたので、令和2年度に施工、完了させる予定で、準備を進めて参ります。

(2) 事業運営

ア 介護予防の取組

高齢期のフレイル予防とフレイル状態からの回復は、健康長寿のカギと言われています。公社では、総合事業通所型市基準サービス（市基準）を、令和元年度から月曜日を追加し、水・金曜日と含め、週3回開催しています。利用者数は増加しましたが、それ以上に地域での需要が見込める状況です。施設に制約はありますが、引き続き調布市と連携し、事業展開の拡張を検討して参ります。

また、社会と繋がりを持つことや、そのような活動を行うことは、介護予防にも有益であると言われてはいますが、公社の協力会員活動はその好事例になります。引き続き広く、市民の皆さんにその活動を紹介し、参加への呼び掛けを行って参ります。

イ 地域の福祉人材の発掘・育成に向けた研修の充実

新たに協力会員になられた方は、17人でした。一方で、高齢化等の事由から活動が難しくなり、休会する方や退会者は40人で、ニーズに対する人員は充足していない状況です。

令和元年度は、職員が定期的に市内の各地域福祉センターで、協力会員募集説明会を開催するなど新たな取組を実施しましたが、十分な参加者が集まらず、期待していた効果が出ませんでした。ターゲットとする年齢層や事業を告知する媒体等を工夫し、引き続き、令和2年度も実施して参ります。

協力会員研修では、対人支援に必要な「傾聴について」、認知症ケアの「ユマニチュード」、医療知識として「胃痛について」の3件のテーマを企画し、実施しました。今後も、活動の場で活かせる実践的な研修の企画をして参ります。

社会福祉士の実習では、4校、4人を受入れました。在宅支援について、総合的に展開していく視点や手法等を学んでいただくことができました。また、介護職員初任者を始めとした23件の専門職研修に職員を派遣し、福祉サービスを実践する公社の社会的使命を果たしました。

介護職を対象とした介護技術勉強会（介護職カフェ）は、就業を終えた各介護事業所のスタッフが自発的に集まり、より良いサービス提供を模索する絶好の学びの場となっています。

ウ 認知症当事者と家族介護者支援の拡充

認知症サポーター養成講座事業では、1,159人の受講者があり、平成29年度に事業を受託してからの累計者数は、4,217人になりました。講座を受講したサポーターへの支援としては、さらに学びを深化させるために認知症サポーターの活躍の場リストを配布したほか、フォローアップ研修として、認知症の方の世界を知る講座を開催しました。

ケアラーの支援については、ケアラー支援マップを更新し、8月に市内全戸に配布しました。新たな取組として、マップに掲載したケアラー支援団体に呼びかけ、意見交換会や学習会を開催し、交流と学びの場を提供しました。

だれでもカフェは、新型コロナウイルス感染症の拡散防止の観点から、2月、3月

の開催は中止しましたが、延べで230人を超える利用者を集め、介護技術講座の開催や参加者が即席の演奏会を開くなど、楽しいひと時が過ごせる場となりました。

デイサービスでは、認知症の行動・心理症状（BPSD）の改善を目的として、「日本版BPSDケアプログラム」を導入しました。ここでアドミニストレーター養成研修を受講した職員は、他の一般介護職員と協力して、現場でのより良いケアの実践に取り組んでいます。

エ 医療介護連携の推進

市内福祉団体や職能団体、また、行政機関の会議に、委員や評議員として参画し、多職種が協働して構築する医療介護連携に努めました。令和元年度も、調布市の地域連携会の一員として、調布市医師会や介護支援専門員調布連絡協議会など、市内8団体と「第2回ちょうふ高齢者応援大会」を開催しました。

オ 地域共生社会の推進

福祉講演会では、「これからの地域共生社会とは～誰もが住みやすいと思える調布を目指して～」と題して、公益財団法人さわやか福祉財団理事長の清水肇子氏に、講演をしていただきました。

講演では、「なぜ助け合いが必要なのか」、「人生100年時代はどういう社会なのか」等についてお話しいただきました。ご来場の方々と、世代や分野を超えて地域社会を創っていく大切さや、現に行われている調布市の助け合い活動の状況等について共有しました。

公社で活動している協力会員が、主体的に関わる「こくりょう子ども食堂わいわい」には、公社も側面からの運営支援をしました。多世代交流の場として、例年企画をしている親子料理講座については、新型コロナウイルス感染症の拡散防止の観点から中止しました。

3 重点プロジェクト

(1) ケースカンファレンス（事例検討会）の推進

| | 事業内容 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|--|---------------|--------------------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | ケースカンファレンスの実施 | 月1回 公開研修1回 | 年12回 公開研修1回 外部連携3回 |
| | ゆうあいチャレンジプログラム | 1回 外部連携実施 | 1回 |
| 評価等 | ○ケースカンファレンスの実施 住民参加・居宅介護支援・地域包括支援センターの相談職を中心に、延べ248人(職員以外12人含む)が参加して資質向上や自己研鑽を目的に、経験、知識を広く共有し、相談対応力の向上につながりました。また、社会福祉士の資格取得を目指す学生の実習プログラムにも組み込み、学びの場を提供しました。 | | |

| | |
|--|--|
| | <p>○ゆうあいチャレンジプログラム</p> <p>ケースカンファレンスの意義，相談援助職による倫理の確認，職員間の信頼関係の強化ワークを実施することで，職種を超えた連携，協力体制の強化につながりました。</p> |
|--|--|

(2) だれでもカフェ（認知症カフェ）の充実

| | 事業内容 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|---|--|--------------------------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | だれでもカフェこくりょう | ① 月1回 若年性認知症 当事者含む ② 若年性認知症 当事者とその 家族を対象に 実態把握 | ① 年10回 (延べ利用者233人) ② 未実施 |
| | だれでもカフェぷちぼあん | 不定期開催 | 1回(利用者2人) |
| 評価等 | <p>○だれでもカフェこくりょう</p> <p>参加者によるハンドマッサージ，フルーツ演奏等を行い，毎回盛況を博しますが，新型コロナウイルス拡散防止のため，2月，3月は中止としました。若年性認知症当事者の新規の参加はなく，事態把握には至りませんでした。認知症の方も家族と定期的に参加し，安心して過ごされ，家族介護の負担軽減につながっています。また，男性介護者の会からはケアラーを支えるグループの学習会へ参加するなど広がりが見えます。引き続き，社会資源の一つとして新たなボランティアを募り，定期開催して参ります。</p> <p>○だれでもカフェぷちぼあん</p> <p>2月に開催しましたが，雨天で周辺を往来する方もなく，参加者は少ない結果となったため，時期や集客方法を検討して参ります。</p> | | |

(3) 先駆的な家族介護者向け支援の推進

| | 事業内容 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|---------------|---|-----------------------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 家族介護者向け介護技術講座 | ① 家族介護者向け介護技術講座2回 ② 家族介護者向け出張介護技術講座 随時 | ① 2回 ② 実績無 |
| | ホームヘルパー出張派遣 | 本年度事業化 年12件 | 相談件数4件 実施件数1件 訪問延件数1件 |

| | |
|-----|--|
| 評価等 | <p>○家族介護者向け介護技術講座 参加者の介護経験や考え方などの情報交換も交えながら、実際に困った場面を伺い、床からの起き上がり介助について実演しました。</p> <p>○家族介護者向け出張介護技術講座 地域の集まり等で呼び掛けを行いましたが、依頼がありませんでした。</p> <p>○ホームヘルパー出張派遣 本年度より事業化し、支援センター連絡会にて広報を行い、調布市高齢者支援室にもチラシの配架をお願いしました。目標件数には届かないものの、一定のニーズはあり、事業の必要性が認められました。</p> |
|-----|--|

(4) 調査研究開発の推進

| | 事業内容 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|----------------------------|------------------|--|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 住民参加型サービスに関するアンケート調査（内部調査） | 調査結果を分析し、事業改善に反映 | アンケート結果を受け、30分単位のホームヘルプサービスを開始 |
| | 新規・改善事業調査 | 新規，改善提案，実施に向けた調査 | 令和元年7月に職員等の事業提案実施（提案18件，うち令和元年度以降の事業に取込むもの6件，担当等で検討を要するもの9件） |
| | 介護予防，フレイル予防調査（実証研究調査） | 調査方法の検討・ニーズ把握 | 集積したデータを取りまとめ，発表するとともに，ホームページに公開しました。 |
| | ホームヘルパー出張派遣 | 令和元年度事業化 年12件 | 相談件数4件 実施件数1件 訪問延件数1件 |
| 評価等 | 概ね目標を達成し，推進が図れました。 | | |

(5) 福祉人材の育成・発掘に向けた研修の充実

| | 事業内容 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|--|--|--|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 介護職カフェ (介護技術勉強会) | 4回以上 | 4回(延べ18事業所 延べ48人参加) |
| | 福祉専門職スキルアップ研修 ① 介護技術勉強会 ② ケアマネカフェ ③ ちょうふ高齢者応援大会 | 2回以上 | 3回 (延べ279人参加) |
| | 各種研修の実施 | ① 協力会員、登録ボランティアなどへの研修の充実 ② 公社運営に携わるプロパー職員への研修の充実 | ① 参加者147人 ② セルフキャリアドッグ実施 令和元年11月5日(火) 参加者21人/正規職員 |
| | 評価等 | <p>○介護職カフェ 毎回、地域の事業所から参加があり、技術向上だけでなく、他事業所間の交流や情報交換等ネットワーク形成の一助となりました。</p> <p>○福祉専門職スキルアップ研修 ①介護技術勉強会 地域の介護事業者職員向けに、ちょうふリハビリテーション連絡協議会から、リハビリ専門職を講師に迎え、介護技術の習得、スキルアップを図りました。</p> <p>②ケアマネカフェ ケアマネジャー向けに薬剤師の役割について調布市薬剤師会の理事を講師に迎え、医療連携の方法等講義後、多職種間のワークを交えてスキルアップを図りました。</p> <p>③ちょうふ高齢者応援大会 医療・福祉の市内8団体が協働し安心して暮らせる仕組みやネットワーク作りができ、広く市民に広報しました。</p> <p>○各種研修の実施 活動研修のほかユマニチュード(認知症ケア)、傾聴を学ぼう等、実践に繋がる研修を実施しました。今後も希望を伺いながら、活動に役立つ研修を実施して参ります。</p> | |

4 実施事業

(1) 住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充 ア 有償在宅福祉サービス事業

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|---|--------------|--------|
| | 利用会員数（世帯） | 300 世帯 | 284 世帯 |
| | 協力会員数 | 310 人 | 283 人 |
| | 協力会員説明会（定期・随時） | 35 回以上 | 28 回 |
| 評価等 | <p>○利用会員数（世帯） 食事サービス利用世帯は伸びましたが、ホームヘルプサービス利用世帯が減少したため、目標値には届きませんでした。</p> <p>○協力会員数 食事サービスに携わる協力会員は増加しましたが、年度更新に伴う退会や未稼働会員の退会が重なり、目標には届きませんでした。</p> <p>○協力会員説明会（定期・随時） 地域福祉センター等への出張開催を増やしましたが、個別による開催が少なく、目標には届きませんでした。</p> | | |

(ア) 利用会員の状況

令和元年度末の登録世帯数は284世帯となり、目標としていた300世帯には届きませんでした。ホームヘルプサービス、食事サービスの提供を通して、ソーシャルワーカーが関係機関とも連携しながら日常生活を支援しました。支援が必要な時に入会する等、生活実態に合わせて利用する方や、協力会員と会えることや会話をすることを楽しみにしている会員も多く、約32%の会員は介護保険制度を利用せず生活されています。引き続き、市民相互の助け合いにより利用会員の生活を支援して参ります。

(単位：世帯)

| 区分 | 令和元年度 | 入会・退会 | 増減 | 平成30年度 |
|---------|------------|----------------------|----|------------|
| 高齢者 | 264(93.0%) | (入会) 154 (退会) 152 | 2 | 262(91.9%) |
| 障害者 | 12(4.2%) | (入会) 10 (退会) 13 | △3 | 15(5.3%) |
| 病弱者 | 4(1.4%) | (入会) 0 (退会) 1 | △1 | 5(1.8%) |
| ひとり親家庭等 | 4(1.4%) | (入会) 1 (退会) 0 | 1 | 3(1.0%) |

| | | | | | |
|--------|--------|-------------|-----|-----|-------------|
| 合 計 | 入会 | — | 165 | — | — |
| | 退会 | — | 166 | — | — |
| | 年度末世帯数 | 284(100.0%) | — | △1 | 285(100.0%) |
| | 会員数 | 358人 | — | △17 | 375人 |

(イ) 協力会員の状況

令和元年度末の登録人数は283人で目標には届かず、担い手不足の状況が続いています。助け合い活動の停滞や既存会員への負担、コーディネートの難しさも増しています。活動状況では食事サービスに携わる協力会員は若年者も含め増加しましたが、ホームヘルプサービスの協力会員は地域により少ない状況が続いています。会員募集では地域福祉センターにおける登録説明会の開催や、調布市全戸に配布した広報紙による活動紹介等、引き続き、地域の助け合いを広げていくため、一人でも多くの方に活動をご理解いただき、登録につながるよう取り組んで参ります。

(令和元年度実績)

| 区 分 | 協力会員 | 月平均 |
|---------------------------|----------------|--------|
| 入会者 | 17人 | 1.4人 |
| 退会者 | 40人 | 3.3人 |
| 令和2年3月末登録者数 (平成31年3月末) | 283人 (306人) | — |
| 月末登録者累計人数 | 3,312人 | 276.0人 |
| 活動者実数(各月合計) | 1,901人 | 158.4人 |
| ホームヘルプサービス | 903人 | 75.3人 |
| 食事サービス | 998人 | 83.2人 |
| 活動率(平成30年度活動率) | 57.4%(51.5%) | |

※ 活動者実数は、複数の活動に参加する会員もいるため、内訳の合計とは一致しない。

※ 活動率(%) = 活動者実数 ÷ 月末登録者累計人数

(ウ) ホームヘルプサービス

令和元年度は、延べ903人の協力会員が、延べ1,839世帯へ8,059.5時間のサービスを提供しました。会員アンケートの声を反映し、5月からサービス提供時間を1時間から30分単位とする制度を導入したところ、利用会員からは「使い勝手が良くなった」、協力会員からは「空いた時間を別の予定に使える」等、会員双方から好評を得ました。引き続き、会員双方のニーズに応えながら、地域の助け合い活動を広げて参ります。

(対象者別利用時間数及び回数)

| 区 分 | | 令和元年度 | | 平成30年度 | |
|----------|--------|-----------|-----------|------------|-----------|
| | | 合 計 | 月平均 | 合 計 | 月平均 |
| 利用者数 | | 1,839世帯 | 153.3世帯 | 1,903世帯 | 158.6世帯 |
| 利用回数 | | 5,818回 | 484.8回 | 6,588回 | 549.0回 |
| 高 齢 者 | 総 数 | | 7,379.5時間 | 615.0時間 | 7,345.0時間 |
| | | 単身 | 3,048.0時間 | — | 2,508.0時間 |
| | | 夫婦 | 1,526.5時間 | | 1,590.5時間 |
| | | 同居 | 2,805.0時間 | | 3,246.5時間 |
| 障害者 | | 391.5時間 | 32.6時間 | 1,544.0時間 | 128.7時間 |
| 病弱者 | | 243.5時間 | 20.3時間 | 236.0時間 | 19.7時間 |
| ひとり親家庭等 | | 45.0時間 | 3.8時間 | 1,602.0時間 | 133.5時間 |
| 利用時間 計 | | 8,059.5時間 | 671.6時間 | 10,727.0時間 | 893.9時間 |

(エ) 食事サービス

令和元年度は延べ998人の協力会員が4万8,225食を提供しました。昨年に比べデイサービスの提供は減少しましたが、会員配食が3万5,072食と、約4.3%増加しました。また、事業を担う協力会員も月平均83.2人の活動となり、40歳代以下の新たな加入や活動終了年齢を73歳から75歳に引き上げて人員の確保に努めた結果、昨年を上回る実績となりました。引き続き、事業を通して元気高齢者の活躍の場の提供、及び安心安全で美味しい食事を提供して参ります。

食事サービス利用状況

| 区 分 | | 令和元年度 | | 平成30年度 | |
|--------|-------|---------|----------|---------|----------|
| | | 延べ合計 | 月平均 | 延べ合計 | 月平均 |
| 会員利用者数 | | 1,908人 | 159.0人 | 1,767人 | 147.3人 |
| 利用総食数 | | 48,225食 | 4,018.8食 | 47,446食 | 3,954.0食 |
| | 会員配食 | 35,072食 | 2,922.7食 | 33,573食 | 2,797.8食 |
| | 国領通所 | 7,320食 | 610.0食 | 8,210食 | 684.2食 |
| | ぷちぽあん | 2,162食 | 180.2食 | 2,673食 | 222.8食 |
| | その他 | 3,671食 | 305.9食 | 2,990食 | 249.2食 |

食事サービス週当たり利用日数／各年度3月利用者 (単位：世帯)

| 区 分 | | 週 1 | 週 2 | 週 3 | 週 4 | 週 5 | 週 6 | 週 7 | 合計 |
|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 昼食 | 令和元年度 | 2 | 8 | 7 | 2 | 4 | 2 | 6 | 31 |
| | 平成30年度 | 3 | 3 | 5 | 4 | 6 | 2 | 3 | 26 |
| 夕食 | 令和元年度 | 12 | 18 | 15 | 11 | 9 | 4 | 10 | 79 |
| | 平成30年度 | 10 | 18 | 17 | 11 | 6 | 2 | 15 | 79 |
| 昼夕食 | 令和元年度 | 1 | 0 | 3 | 0 | 4 | 2 | 13 | 23 |
| | 平成30年度 | 1 | 0 | 3 | 2 | 3 | 1 | 13 | 23 |
| 合計 | 令和元年度 | 15 | 26 | 25 | 13 | 17 | 8 | 29 | 133 |
| | 平成30年度 | 14 | 21 | 25 | 17 | 15 | 5 | 31 | 128 |

食事サービス月当たり利用者区分／各年度3月利用者 (会員)

| 区 分 | | 令和元年度 | | 平成30年度 | |
|---------|-----|-------|------|--------|------|
| | | 世帯数 | 人 数 | 世帯数 | 人 数 |
| 高齢者 | 単 身 | 64世帯 | 64人 | 66世帯 | 66人 |
| | 夫 婦 | 31世帯 | 48人 | 31世帯 | 41人 |
| | 同 居 | 30世帯 | 37人 | 24世帯 | 30人 |
| 障害者 | | 3世帯 | 3人 | 3世帯 | 3人 |
| 病弱者 | | 2世帯 | 2人 | 2世帯 | 2人 |
| ひとり親家庭等 | | 3世帯 | 5人 | 2世帯 | 4人 |
| 合 計 | | 133世帯 | 159人 | 128世帯 | 146人 |

※各区分の人数は世帯員等の内3月食事サービス利用者

(オ) 福祉施設へのサービス提供 (ホームヘルプサービス・食事サービス)

認知症高齢者グループホーム「こぶしの花深大寺」にホームヘルプサービスとして、協力会員を派遣して手作りの家庭的な食事を提供しました。

入間町デイサービスぷちぼあん及び調布市国領高齢者在宅サービスセンター、子ども家庭支援センター「すこやか」の利用者へ継続的に食事サービスを提供しています。また、ひだまりサロンYY、わかば作業所の家族会等にもご利用頂きました。

(カ) 会員交流事業

公社会員 (利用・協力・賛助) を対象に、会員相互の交流を図る目的で、深大寺散策を企画して、境内の散策、国宝白鳳仏を拝観して深大寺そばを堪能しました。

12人の方にご参加頂き、交流を深めることができました。

(キ) 会員慶弔

利用会員の誕生日にご自宅を訪問し、ミニブーケを届けました。逝去に際しては、弔電で弔意を表しました。

イ 生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」

| 第2次中期 計画 目標・成果 指標 | 項目 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|----------------------------|--|--------------|-------|
| | 利用件数 | 140 件 | 117 件 |
| | 登録ボランティア数 | 110 人 | 110 人 |
| 評価等 | <p>○利用件数 昨年と比べ 1 月から相談件数は増えてきましたが、日程や内容が合わないケースや受付時の助言等で自己解決できた等、利用には至りませんでした。引き続き、稼働できるボランティアの確保、事業の広報に努めます。</p> <p>○登録ボランティア数 目標値には達しましたが、いつでもどこでも稼働できるボランティアを増やす取組が求められています。事業の趣旨、地域の助け合いを周知して参ります。</p> | | |

ソーシャルワーカーが、ひとり暮らし高齢者などから、電球交換や荷物の上げ下ろし等のちょっとした困りごとを引き受け、登録ボランティアが解決しました。ソーシャルワーカーが関わることで、「ちょっとした困りごと」の解決と併せ、ひとり暮らし高齢者の孤立防止やソフトな見守り等の支援ができました。

本事業が、住民参加型で行われることで、地域社会のコミュニケーションの活性化の一助になると考えています。令和元年度は目標には届きませんでした。機関紙や介護支援専門員調布連絡協議会等で広報に努めた他、専用チラシの作成に取組みました。引き続き、困りごと解決の他、見守りや市民の活躍の場の提供等、適切なコーディネートに努めて参ります。

| 事業名 | 実施内容 | 利用件数、参加者数等 |
|------------------------|--|---|
| 生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」 | 30分程度でできる「ちょっとした」お手伝いをソーシャルワーカーが登録ボランティアをコーディネートして、困りごとを解決 | 相談件数：163 件（うち新規：61 件） 利用件数：117 件（うち新規：38 件） 登録ボランティア：110人 ※登録ボランティア説明会は、協力会員説明会と合同開催 |

ウ 在宅福祉サービスに関する相談事業

| | 実施内容 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|---|------------------|-------------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 受付窓口（電話，来所，訪問など）対応の充実 | 受付窓口担当の配置 | 受付窓口担当を配置 |
| | 休日，夜間の電話相談の受付体制（地域包括支援センター，居宅介護支援） | 営業時間外の専門職による受付体制 | 営業時間外は専門職が携帯電話で受付 |
| 評価等 | <p>○受付窓口（電話，来所，訪問など）対応の充実 時間帯により混雑する受付窓口を担当者を配置して来所者の案内や利用者の誘導など適切に行いました。</p> <p>○休日，夜間の電話相談の受付体制（地域包括支援センター，居宅介護支援） 午後6時15分以降は携帯電話へ転送により受付（地域包括支援センター，居宅介護支援）と法人留守番電話による伝言受付により適切に行いました。</p> | | |

高齢者を中心に，障害者，病弱者及びひとり親家庭等の総合相談の窓口として，在宅生活における介護などの様々な相談に応じました。また，地域の機関と連携しながら，公社の持つ情報やネットワークを駆使し，問題解決に向けた支援を行いました。365日対応することで，市民にいつでも相談できる安心感を与え，信頼を築くことができました。

医師及び弁護士による相談事業は，個人に限らず市内の事業所の専門職等にも門戸を広げ，地域で福祉や介護サービスを担う人材へのサポートや資質向上に努めました。

| 事業名 | | 令和元年度 | 平成30年度 | 備考 |
|------------------|------|---------|---------|--------------------|
| 在宅福祉サービスに関する生活相談 | 電話 | 9,300件 | 9,771件 | ソーシャルワーカー，看護師による相談 |
| | 来所 | 854件 | 810件 | |
| | 訪問 | 3,299件 | 3,497件 | |
| | その他※ | 2,137件 | 2,671件 | |
| | 計 | 15,590件 | 16,749件 | |
| 医師による健康相談 | 内科 | 5件 | 9件 | 医師による相談 |
| | 精神科 | 9件 | 12件 | |
| 弁護士による法律相談 | | 7件 | 10件 | 弁護士による相談 |
| 福祉用具などの相談，貸出，紹介 | | 234件 | 231件 | 貸出件数 |
| 総合計 | | 15,845件 | 17,011件 | |

※ 電話・来所・訪問の分類に入らない手段（事業利用時・メール等）での相談。

(2) 認知症施策の推進－認知症当事者とその家族への支援

ア 認知症サポーター養成講座事業

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 事業名 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|--|-------------------|-----------|
| | 認知症サポーター数（年度） | 1,000人以上 | 1,159人 |
| | 認知症サポーターフォローアップ研修 | 2回 (100人以上/1回) | 1回 26人 |
| 評価等 | ○認知症サポーター数（年度） 目標値以上のサポーターを養成できました。 ○認知症サポーターフォローアップ研修 地域参加の契機となるフォローアップ研修参加者の年齢層が変化していません。幅広い年齢層の参加が課題となっています。 | | |

認知症になっても、安心して暮らし続けられるまちを目指して、地域の自治会や企業、学校など幅広い世代に向け、本講座を開催し、認知症の方やその家族の応援者となる認知症サポーターの養成に努めました。併せて、認知症サポーターとなった方々に「活躍の場」を情報提供するために「認知症サポーターの活躍の場リスト」を年1回最新の情報に更新・作成し、受講後のサポーターに配布しました。

また、「認知症当事者の世界を模擬体験する研修」としてフォローアップ研修も実施しました。認知症当事者の方の世界の見え方について、講義や当事者の方の感覚を模擬体験するグループワークを通し、当事者の方の理解を深めました。

| 事業名及び内容 | | 回数 | 参加者数 |
|-------------------|--|-----|--------|
| 認知症サポーター養成講座 | 地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施、キャラバンメイトの調整・派遣 | 37回 | 1,159人 |
| 認知症サポーターフォローアップ研修 | 認知症当事者の世界を知るための講義、グループワーク形式の研修 | 1回 | 26人 |
| 認知症サポーターの活躍の場リスト | 認知症サポーターの活躍の場の情報を更新・発行し市内全戸配付 | 1回 | — |

イ 家族介護者支援事業

家族介護者にとって安心できる居場所の提供や、市内にある「家族介護者の居場所」等の情報提供、また自宅で介護している家族に有効な介護技術の講習会を開催することで、家族介護者を支援しました。

介護している家族の方が一息つける居場所を提供するため「だれでもカフェ」を月1回定期的に開催していましたが、2月、3月は新型コロナウイルス感染症拡散防止のため開催を中止しました。市内の家族介護者の居場所の情報として発行している「ケアラー支援マップ」は最新の情報に更新し、市内全戸に配付しました。家族介護者向けの介護技術講座は年2回開催したほか、神代団地自治会へ出張し、開催しました。

ケアラー支援マップに掲載されている15の団体より、かねてから希望のあった、意見交換会を初めて開催し、各団体との情報共有、意見交換を行いました。また、その意見交換会のなかで出た「ケアラー支援の基本を学びたい」との要望を受け、ケアラー支援についての学習会を開催し、支援の理解を深めました。

| | 事業名 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|--|-----------------|----------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | だれでもカフェ | 200人 | 235人 |
| | 認知症高齢者等を介護するケアラー（介護者）支援マップ | 更新・発行 | 1回更新・発行 |
| | 家族介護者向け介護技術講座 | 15人（出張介護技術講座含む） | 9人（出張介護技術講座含む） |
| 評価等 | 認知症当事者や家族介護者の参加数は横ばいのため、必要とする方に届くよう、より効果的な広報が課題となっています。家族介護者向け介護技術講座は参加者一人ひとりの困りごとに沿いながら実施できました。 | | |

| 事業名 | 実施回数 | 参加者数 | 備考 |
|-----------|---------------|---------------|--|
| 家族介護者支援事業 | 月1回 (計10回) | 参加者 延べ235人 | ○だれでもカフェこくりょう(毎月第4日曜日)※10の筋力トレーニング、ハンドベル、ハンドマッサージ、男性介護者のつどい等 ○だれでもカフェぷちぼあん(不定期：令和2年2月16日)※家族介護者向け介護技術講座開催 |

| | | | | |
|--|-----------------------------|------|--|--|
| | 調布市認知症高齢者等を介護するケアラー支援マップの改訂 | 年1回 | 発行12万5,000部 (内12万3,000部を市内全域にポスティング, 2,000部を関係機関に配架等) | 令和元年8月1日広報紙ゆうあい18号にて第8版を掲載。ケアラーを支えるグループ15件(新規1件), 相談窓口, 地域密着型サービス, 研修会等の情報を掲載 |
| | 家族介護者向け介護技術講座 | 年2回 | 7人 | 「知って安心, 自宅での介護のコツ」 ① だれでもカフェこくりょう開催時実施 令和元年7月28日(日) 参加者4人 ② だれでもカフェふちぼあん開催時実施 令和2年2月16日(日) 参加者5人 |
| | ケアラーを支えるグループの意見交換会 | 年1回 | 11団体 30人 | 各団体の活動発表, グループワークによる意見交換 |
| | ケアラーを支えるグループの学習会 | 年1回 | 10団体 46人 | 講義「ケアラー支援とは何か」, ワークショップ ケアラーのロールプレイ |
| | ホームヘルパー出張派遣 | 年12件 | 相談 4 件 実施 1 件 訪問延1件 | 介護保険申請中または介護保険要介護認定を受けている方を対象に2回を限度に無料で公社のヘルパーを派遣 |

(3) フォーマルサービスの充実

ア 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 目標値 令和元年度 | | 実績 |
|--------------------|---|---------|----|
| | 延べ利用者数 | 9,340 人 | |
| 延べボランティア数 | 820 人 | 683 人 | |
| 評価等 | ○延べ利用者数 利用者数においては, 総合事業通所型サービス(市基準)では利用者の増員を実現しましたが, 全体としては新規受入や増回が困難な状況が続く, | | |

| | |
|--|--|
| | 目標を下回りました。 ○延べボランティア数 ボランティアについては今後もチラシや紹介を継続し、新規受入を積極的に行って参ります。 |
|--|--|

利用者の個別状況について、職員間で情報共有しつつ、定期的に通所介護計画の見直しを行い、様々な季節行事を取り入れながら年間を通してサービス提供を行いました。また、関係機関と連携を図りながら、多くの課題を抱えた利用者を受入れるなど、地域のセーフティネットとしての役割も果たしました。令和元年度の利用延べ人数は8,561人で、目標値より779人の不足となりました。職員体制が厳しい中、総合事業通所型市基準サービス（市基準）の開催日増を前倒しでオープンしましたが、通所介護と認知症対応型通所介護において入浴サービスを併せた利用希望が多く、入浴定員がいっぱいで受入が出来ないため、新規獲得に繋げることができませんでした。その結果、利用者増を実現できず、目標を下回りました。

総合事業通所型市基準サービス（市基準）については、8月より月曜日も開催し、週3回の開催となりました。今年度は調査研究開発事業と協働し、市基準の利用者を対象としたフレイル予防の調査を行いました。引き続き、市と連携して積極的な事業展開を進めて参ります。

通所介護では個別機能訓練加算Ⅰの取得から2年経過し、利用者の身体の状態に合わせた運動プログラムの作成、及び機能評価が行える体制を維持し、継続した身体機能の維持・改善や向上を図ることが出来ました。引き続き、個別機能訓練加算Ⅰの加算取得に努めて参ります。

認知症対応型通所介護では、今年度より認知症の行動・心理症状（BPSD）の改善が期待される「日本版BPSDケアプログラム」を導入し、アドミニストレーター養成研修を受講した職員と介護職が協力し、より良い利用者のケアに繋がるよう現場での実践に取り組みました。引き続きケアプログラムを活用しながら事業を展開して参ります。

| 区 分 | | 令和元年度 | 平成30年度 |
|------------|------|--------|--------|
| 通所介護 | 延べ人数 | 4,378人 | 4,755人 |
| | 1日平均 | 14.1人 | 15.4人 |
| 総合事業（国基準） | 延べ人数 | 1,072人 | 1,415人 |
| | 1日平均 | 3.46人 | 4.6人 |
| 総合事業（市基準） | 延べ人数 | 1,287人 | 746人 |
| | 1日平均 | 9.12人 | 12.4人 |
| 認知症対応型通所介護 | 延べ人数 | 1,824人 | 1,981人 |
| | 1日平均 | 5.90人 | 6.4人 |

(ア) 運営推進会議

情報の公開及び地域との連携・交流を確保し、サービスの質の確保・向上を図るため、利用者の家族や地域住民の代表者、サービスに知見を有する方に委員として参加していただき、今年度は2回開催しました。

| 開催日 |
|--------------|
| 令和元年9月16日(月) |
| 令和2年2月17日(月) |

(イ) 家族会

介護者の支援として家族会を開催しました。介護から離れ、家族介護者同士が集い、職員を交えて介護の実践方法や成功体験談など、当事者ならではの具体的な意見交換をすることで、新たな視点や発見の機会を提供することができました。令和元年度は9月と3月に開催予定でしたが3月は新型コロナウイルス拡散防止のため中止としました。9月の開催では4人の参加がありました。

| 開催日 | 参加者数 |
|--------------|-----------|
| 令和元年9月16日(月) | 4人 |
| 令和2年3月 | 感染予防のため中止 |

(ウ) 地域福祉交流育成

令和元年度は、個人・団体ともに、ボランティアの受入数が減少しました。個人ボランティアにおいては高齢化による体調不良、団体ボランティアについては、個別機能訓練を実施するため、来訪回数を調整したことが要因となっています。今後もチラシや口コミによる募集を継続していきます。

職場体験は、2名の中学生が福祉現場を体験したことで福祉を知ってもらい、考えてもらうきっかけ作りとなりました。今後も職場体験の中学生を積極的に受入、福祉意識の醸成へ繋がるよう、地域へ発信して参ります。

| 区 分 | | 令和元年度 | 平成30年度 |
|-----------|--------|------------|------------|
| ボランティア受入れ | 個人 | 延べ433人 | 延べ498人 |
| | 団体(人数) | 43団体(250人) | 31団体(285人) |
| ボランティア交流会 | 実施回数 | 0回 | 0回 |
| | 参加者数 | 延べ0人 | 延べ0人 |
| 職場体験受入れ | 受入者数 | 2人 | 0人 |
| | 期間 | 5日間 | 0日間 |

イ 調布市地域包括支援センターゆうあい事業

| | | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|----------------------------|-----------------------------------|--------------|---|
| 第2次中期 計画 目標・成果 指標 | 介護予防関連事業 参加者数(出張説明 会, 介護教室) | 140人 | <p>延べ参加者 200人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護教室 (2日間) ・9月19日(木) 「高齢期の過ごし方～生活に取り入れたい運動習慣と社会参加～」参加者30名 ・9月26日(木) 「高齢期の過ごし方～高齢期の身体特徴と生活習慣からの疾病～」参加者37名 ●出張説明会 ・6月23日(日) NPO法人調布SHC倶楽部 「肺炎を予防するために！～誤嚥性肺炎って知っていますか？～」参加者16名 ・8月21日(水) 国領児童館 「認知症サポーター養成講座～児童向け～」参加者19名 ・8月22日(木) 菊野台サロン 「10の筋力トレーニング体験会」参加者13名 ・10月16日(水) くすのき1号棟集会場 「10の筋力トレーニング体験会」参加者26名 ・11月13日(水) くすのき1号棟集会場2回目 「10の筋力トレーニング体験会」参加者11名 |

| | | | |
|--|---------------|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・1月7日(火) サロンドわきあいあい 「10の筋力トレーニング体験会」参加者10名 ・1月29日(水) くすのき1号棟集会場3回目 「10の筋力トレーニング」参加者10名 ・2月25日(火) くすのき1号棟集会場4回目 「10の筋力トレーニング」参加者7名 ・3月11日(水) くすのき1号棟集会場5回目 「10の筋力トレーニング」参加者名6名 ・2月14日(金) NPO法人調布SHC倶楽部 「身体を使った認知症予防」～アタマもカラダも元気でいよう！～参加者15名 | |
| | 地域ケア会議参加者延べ人数 | 90人 | <p>延べ参加者68人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 6月28日(金) 「認知症になっても安心して暮らせるまち～迷い人の事例を通じて～」参加者26名 ・第2回 11月22日(金) 「家で看取るために必要なこと～看取り事例より役割を理解する～」参加者28名 ・第3回 2月26日(水) 「地域でできる防災・減災について～わたしの準備,わたしたちの準備～」参加者14名 |

| | | | |
|-----|---|------|------|
| | みまもっとPR 活動件数 | 300件 | 235件 |
| 評価等 | <p>設定した目標値は、概ね達成ができました。出張説明会は、健康寿命の延伸や健康増進のための環境づくりを目的としてテーマ設定し、開催いたしました。台風19号における水害に対する考え方を地域の方と共に考える第3回地域ケア会議においては、新型コロナウイルスの影響もあり、消極的な参加となりました。防災・減災の視点で、今後も地域課題として、継続した取組テーマとして実施する必要があります。みまもっとPR活動については、行事の中止などで目的数値に対しては未達成ですが、効果的、効率的なネットワークづくりをテーマに、月毎に業種を決め、PRに行く等の工夫をいたしました。</p> | | |

調布市内の高齢者人口の最多地区を担当し、地域のセーフティネット、また、地域包括ケアを支える拠点として、高齢者や障害を持つ方々が地域で安心して暮らせるように、数多くの相談を受けるとともに、医療や介護などの関係機関と密な連携を図りました。併せて、地域の団体や自治会等へ認知症や介護予防、とりわけ10の筋力トレーニングの体験会を複数回開催するなど、普及啓発に努めました。また、専門職向け勉強会を事例検討会の場で実施しました。

自治会・地域団体・介護保険事業所・医療機関等が集まる地域ケア会議では、テーマにあわせ、参加者に呼びかけを行い地域課題について有意義な意見交換ができました。

(ア) 総合相談事業

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 |
|--------|--------|--------|
| 相談件数 | 7,411件 | 7,634件 |
| 実態把握人数 | 1,176人 | 1,359人 |

(イ) 地域ネットワーク

| 区 分 | 実施日・回数等 | 参加者数 |
|--------|--|------|
| 地域ケア会議 | 「認知症になっても安心して暮らせるまち～迷い人の事例を通じて～」 令和元年6月28日(金) | 26人 |
| | 「家で看取るために必要なこと～看取り事例より役割を理解する～」 令和元年11月22日(金) | 28人 |
| | 「地域でできる防災・減災について～わたしの準備、わたしたちの準備～」 令和2年2月26日(水) | 14人 |

| | | | |
|------------------------------|---|----------------------------------|---------------|
| 広報協力員 研修，連絡 調整会 | 施設見学「希望」 (看護小規模多機能型 居宅介護) | 令和元年8月29日(木) | 7人 |
| 広報協力員 PR訪問 | 市の世帯状況調査で訪 問を希望した高齢者に 広報協力員が訪問し，市 の施策や事業等の紹介 | 新規訪問 1回 | 23世帯 29人 |
| | | 継続訪問 1回 | 8世帯 12人 |
| 民生児童委 員と広報協 力員の連絡 会 | 第2地区 | 令和元年6月11日(火) | 11人 |
| | 第4地区 | 令和元年6月24日(月) | 7人 |
| 認知症サポ ーター養成 講座の開催 | 調布市高齢者家事援助 ヘルパー養成研修受講 生 | 令和元年7月9日(火) | 10人 |
| | 国領児童館 | 令和元年8月21日(水) | 19人 |
| | 一般市民(市主催) | 令和元年11月9日(土) | 14人 |
| | 調布市司法書士会 (リーガルサポート調 布支部) | 令和元年11月13日(水) | 14人 |
| | シルバー人材センター | 令和2年1月31日(金) | 23人 |
| | 調布市サービス公社 | ① 令和2年3月16日(月) ② 令和2年3月17日(火) | ① 11人 ② 7人 |
| 認知症総合 支援事業 | 調布市高齢者応援大会にて，認知症地域支援推進員が認知症カフェについてPRしました。認知症地域支援推進員がみまもっと担当と共に地域に向けて，認知症理解を促進するチラシを配布する等のPRを実施しました。総合相談の中でも認知症の相談は家族や近しい人からの相談が増えています。地域への認知症対応の普及啓発(認知症サポーター養成講座)に努めました。 | | |
| 在宅医療・ 介護連携推 進事業 | 医療連携の推進については，ICTの活用推進，医療機関の特徴等についての適切な把握，相談窓口の活用について推進しました。ちようふ医療相談室と連絡会を開催し，圏域における医療連携の実情を共有しました。 | | |

(ウ) 介護支援

| 区 分 | | 実施日・回数等 | 参加者数 |
|----------|--------------------------------|---|------|
| 介護教室 | 「高齢期の過ごし方～生活に取り入れたい運動習慣と社会参加～」 | 令和元年9月19日(木) | 30人 |
| | 「高齢期の過ごし方～高齢期の身体特徴と生活習慣からの疾病～」 | 令和元年9月26日(木) | 37人 |
| 家族介護者の支援 | | 男性介護者にだれでもカフェ紹介, ケアラーマップの配付等を通じて家族の方への支援を実施 | |

(エ) 権利擁護

| 区 分 | 令和元年 | 平成30年度 |
|---------------------------|------|--------|
| 虐待予防相談 | 123件 | 119件 |
| 成年後見制度の活用推進, 消費者被害の防止等の相談 | 82件 | 147件 |

(オ) ケアマネジメント支援

| 区 分 | 内 容 | | |
|----------------|-----------------------------|---|--|
| ケアマネジャー支援 | 適正なケアプラン作成のための支援：104件 | | |
| 地域連絡会ケアマネットの開催 | 「多職種連携に必要なこと～専門職の領域理解を深めて～」 | 令和元年6月21日(金) | 26人 |
| | 「“AIを活用したケアプランニング”について考える」 | 令和2年1月14日(火) | 33人 |
| | 事例検討会(勉強会) | ① 平成31年4月24日(水) ② 令和元年7月24日(水) ③ 令和元年8月28日(水) ④ 令和元年9月25日(水) ⑤ 令和元年11月27日(水) 第4水曜日定例開催 | ① 5人 ② 6人 ③ 11人 ④ 7人 ⑤ 10人 |

(カ) 介護予防マネジメント

高齢者等が現況の身体状況を維持し、安心して在宅生活の継続ができるように、自立支援を目指した介護予防支援及び介護予防マネジメントによる支援を行いました。

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 |
|---------------|--------|--------|
| 介護予防ケアプラン作成件数 | 2,091件 | 1,960件 |
| 介護予防ケアプラン委託件数 | 1,033件 | 1,209件 |

(キ) 見守りネットワーク事業

地域での事業協力者を拡大するため、地域団体への説明会や、地域住民への広報活動を行いました。また、公社のホームページや広報紙「ゆうあい」・「みまもっと便り」を活用し、地域住民への周知を図りました。

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 |
|--------|-------|--------|
| 通報件数 | 65件 | 76件 |
| P R 件数 | 235件 | 336件 |

(ク) 包括的・継続的ケアマネジメント支援

| 区分 | 内容 |
|-------------------|--|
| 包括的・継続的ケアマネジメント支援 | 高齢の方々が住み慣れた地域で自立して生活するために必要な援助、支援を行うために関係機関との連絡調整を実施しました。広報協力員と民生委員との連絡会、地区協議会への参加等で地域ケア会議や関係者会議等へ地域の介護事業所等へ参加の促しを行いました。 |

(ケ) 一般施策判定業務

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 |
|-----|-------|--------|
| 判定数 | 311件 | 271件 |

(コ) 出張説明会

| 区 分 | 実施日・回数等 | 参加者数 |
|---|--------------|------|
| NPO法人調布SHC倶楽部「肺炎を予防するために！～誤嚥性肺炎って知っていますか？～」 | 令和元年6月23日(日) | 16人 |
| 国領児童館「認知症サポーター養成講座～児童向け～」 | 令和元年8月21日(水) | 19人 |

| | | |
|------------------------------------|---------------|-----|
| 菊野台サロン 「10の筋力トレーニング体験会」 | 令和元年8月22日(木) | 13人 |
| くすのき1号棟集会場 「10の筋力トレーニング体験会」 | 令和元年10月16日(水) | 26人 |
| くすのき1号棟集会場2回目 「10の筋力トレーニング体験会」 | 令和元年11月13日(水) | 11人 |
| サロンドわきあいあい 「10の筋力トレーニング体験会」 | 令和2年1月7日(火) | 10人 |
| くすのき1号棟集会場3回目 「10の筋力トレーニング」 | 令和2年1月29日(水) | 10人 |
| 「身体を使った認知症予防」 ～アタマもカラダも元気でいよう！～ | 令和2年2月14日(金) | 15人 |
| くすのき1号棟集会場4回目 「10の筋力トレーニング」 | 令和2年2月25日(火) | 7人 |
| くすのき1号棟集会場5回目 「10の筋力トレーニング」 | 令和2年3月11日(水) | 6人 |

(サ) 介護保険要介護認定調査

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 |
|--------|-------|--------|
| 認定調査件数 | 17件 | 32件 |

ウ 軽度生活援助事業

| 第2次中期 計画 目標・成果 指標 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|----------------------------|---|--------|
| | 延べ利用時間数 | 206 時間 |
| 延べ利用者数 | 36 人 | 28 人 |
| 評価 | 介護保険制度だけでは対応できないケースに対する支援体制の構築維持は必要のため継続していきます。 | |

介護保険サービスにおける支給限度額内のサービスだけでは支援体制を構築できないケースや、本人の認知機能症状で介護保険サービスの受入ができないケースに介入し継続的な支援を実施しました。令和元年度は延べ利用者は目標に届かないものの、サービス提供延べ時間数は若干の増加となりました。

| 区 分 | | 利用者延べ数 | サービス提供 延べ時間数 | サービス提供 延べ回数 |
|-------|--------|--------|-----------------|----------------|
| 見守り事業 | 令和元年度 | 28人 | 229時間 | 189回 |
| | 平成30年度 | 28人 | 207時間 | 154回 |

(4) 介護保険事業（自主事業）による自立支援の推進

ア 訪問介護事業，障害者訪問介護事業

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|-----------------------------|--|-----------|
| | 延べ利用時間数 | 1万6,000時間 |
| 介護職カフェ（介護技術勉強会） 開催回数（再掲） | 4回以上 | 4回 |
| 評価等 | <ul style="list-style-type: none"> 延べ利用時間数 退職者の補充ができず，目標値には至らない状況となりました。今後，新たな雇用形態の創出を行い，職員の確保を積極的に行って参ります。 | |

(ア) 訪問介護事業

安定した事業運営を目指し，月次での収支状況の確認を行い，法人内で情報共有するとともに，日常業務の見直しを行い，効率化を図りました。また，調布市の高齢者家事援助ヘルパー養成研修，介護職員初任者研修，重度訪問介護員研修講師派遣等や介護職カフェ開催を通して，福祉人材の育成と地域への還元の一助を担いました。

| 区分 | 利 用 者 数（上：延べ人数，下：%） | | | | | | | | 訪問時間数 訪問回数 |
|--------|---------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-------|---------------|
| | 要支援 1 | 要支援 2 | 要介護 1 | 要介護 2 | 要介護 3 | 要介護 4 | 要介護 5 | 合 計 | |
| 令和元年度 | 114 | 248 | 202 | 212 | 89 | 92 | 128 | 1,085 | 9,938時間 |
| | 10.5 | 22.9 | 18.6 | 19.5 | 8.2 | 8.5 | 11.8 | 100.0 | 12,906回 |
| 平成30年度 | 186 | 269 | 201 | 191 | 95 | 114 | 113 | 1,169 | 10,417時間 |
| | 15.9 | 23.0 | 17.2 | 16.3 | 8.1 | 9.8 | 9.7 | 100.0 | 13,207回 |

(イ) 障害者訪問介護事業

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づき，居宅介護・重度訪問介護の対象者が，地域で安心して自立した在宅生活を継続できるように，サービス提供に努めました。

| 区 分 | 利用者数 | サービス提供時間数 | サービス提供回数 |
|--------|------|-----------|----------|
| 令和元年度 | 331人 | 3,132時間 | 2,315回 |
| 平成30年度 | 328人 | 3,250時間 | 2,399回 |

(ウ) 定期研修

| 区 分 | 回数 | 参加者数 |
|------|------|--------|
| 定期研修 | 年13回 | 延べ187人 |

(エ) 介護職カフェ（介護技術勉強会）

| 区 分 | 実施日 | 参加者数 |
|---------------------|---------------|-------------|
| 介護職カフェ（介護技術勉強会）（再掲） | 令和元年7月18日（木） | 14人（参加4事業所） |
| | 令和元年9月19日（木） | 14人（参加5事業所） |
| | 令和元年11月21日（木） | 13人（参加4事業所） |
| | 令和2年2月20日（木） | 7人（参加5事業所） |

イ 居宅介護支援事業、介護保険要介護認定調査事業

| 第2次中期 計画 目標・成 果指標 | | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|----------------------------|---|--------------|---------|
| | | ケアプラン作成数 | 1,490 件 |
| | 福祉専門職スキル アップ研修（再掲） | 2 回以上 | 3 回 |
| 評価等 | ○ケアプラン作成数 年度当初にシステム変更を行い、業務手順の再構築を行うため、一時新規利用者の受入を中止したこと、また、年度途中で職員の休業もあり、目標数値を達成できませんでした。 | | |

(ア) 居宅介護支援事業

利用者が、住み慣れた地域でその方の望む生活を実現し、可能な限り継続ができるように、適切なアセスメントと課題分析を行うとともに、公的制度や地域の社会資源を活用したケアマネジメントを行いました。収支差額は計画予算上よりも小さくなり経営努力の一定の成果が出せました。

(上：延べ利用者数，下：%)

| 年度 | 要支援1 | 要支援2 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合計 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 令和元年度 | 35 | 30 | 496 | 437 | 241 | 133 | 92 | 1,464 |
| | 2.4 | 2.0 | 33.9 | 29.8 | 16.5 | 9.1 | 6.3 | 100.0 |
| 平成30年度 | 9 | 31 | 472 | 333 | 211 | 132 | 80 | 1,268 |
| | 0.7 | 2.5 | 37.2 | 26.3 | 16.6 | 10.4 | 6.3 | 100.0 |

(イ) 介護保険要介護認定調査事業

調布市の介護保険制度運営のため、介護保険法に基づく要介護認定調査を行いました。

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 |
|--------|-------|--------|
| 認定調査件数 | 29件 | 31件 |

(ウ) 福祉専門職スキルアップ研修

| 区 分 | 実施日・回数等 | 参加者数 |
|---------------|---------------|-------------|
| ① 介護技術勉強会 | 令和元年5月16日(木) | 29人(13事業所) |
| ② ケアマネカフェ | 令和元年10月24日(木) | 16人(11事業所) |
| ③ ちょうふ高齢者応援大会 | 令和2年1月12日(日) | 234人(主催者発表) |

ウ デイサービスぷちぼあん事業

| | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|--|----------------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | | |
| 延べ利用者数 | 2,670人 (稼働率86.5%) | 2,162人 (稼働率70.1%) |
| 地域開放支援事業 | 23回 | 16回 |
| 家族会開催回数 | 2回 | 2回 |
| 評価等 | <p>延べ利用者数(稼働率)は目標値に対して80%の到達となり、達成することが困難な状況でした。職員補充が出来ず、国領からの看護師バックアップを受けましたが、廃止者6名に対し、新規利用者が8名ですが、複数の曜日に通所介護を利用されていた方々の廃止が要因として大きく出ました。</p> <p>地域開放支援事業については、新規利用施設はなかったですが、今後も地域への発信を継続し、開かれた施設運営を目指して参ります。</p> | |

通所介護事業では、利用者が少しでも長く住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように、きめ細かな個別ケアを実践するとともに、季節ごとに行事を取り入れるなど年間を通して、転倒予防体操やウォーキング、また、家事作業等の活動や趣味・交流の活動を中心としたサービス提供を行いました。今年度からは認知症の周辺症状(BPSD)への評価や計画という新しいアプローチ(DEMBASE)も試みながらサービス提供を行いました。

令和元年度の事業実施日数は257日で、利用延べ人数は2,162人、利用率は約70%となりました。1日当たりの平均利用人数は約8人で、収支においては目標と大きく乖離しました。次年度へ向けて改善点について引き続き検証し、安定化に向けた取組みを行って参ります。また、家族介護者の支援を目的とした家族会を年2回開催しました。今年度はアンケートを実施し、多くの家族から家族会へのご意見や要望など承ることが出来ました。次年度も職員を交え、様々な意見や情報

の交換をすることで、負担軽減の一助を担います。

(ア) デイサービスぷちぽあん事業

| 区 分 | | 令和元年度 | 平成30年度 |
|----------------|------|--------|--------|
| 認知症対応型通所介護 | 延べ人数 | 2,162人 | 2,657人 |
| | 1日平均 | 8.4人 | 10.3人 |
| 介護予防認知症対応型通所介護 | 延べ人数 | 0人 | 0人 |
| | 1日平均 | 0人 | 0人 |

(イ) 運営推進会議

情報の公開及び地域との連携・交流を確保し、サービスの質の確保・向上を図るため、利用者の家族や地域住民の代表者、サービスに知見を有する方に委員として参加頂きました。(年2回開催)

| 開催日 |
|--------------|
| 令和元年5月28日(火) |
| 令和元年12月6日(金) |

(ウ) ぷちぽあん事業運営協議会

地域住民が協議会に参加し、ぷちぽあんの事業運営のサポートを担っていただいています。今年度はぷちぽあん祭りがなく、年2回開催している運営推進会議の第1回に参集して頂き、ご意見やご要望、情報共有や協議を行いました。次年度はぷちぽあん祭り開催年ですので、今後の協議会についての検討も併せて実施して参ります。

| 開催日 |
|--------------|
| 令和元年5月28日(火) |

(エ) 家族会

ご家族向けのアンケートを行い、家族会へのご意見やご要望等を伺いました。ご家族の高齢化や、事業所の立地場所もあり、実際に家族会に参加出来る人は限られており、普段の交流や支援のなかでご家族の情報共有など工夫をしながら進めて参ります。

| 開催日 | 参加者数 |
|---------------|------|
| 令和元年6月26日(水) | 2人 |
| 令和元年10月25日(金) | 2人 |

(オ) 地域開放支援事業

地域開放支援事業では、ひだまりサロンや自治会への施設貸出を実施しました。

| 区 分 | | 令和元年度 | 平成30年度 |
|-------------|------|--------|--------|
| ボランティア受入れ | 活動者数 | 延べ324人 | 延べ407人 |
| ひだまりサロン実施支援 | 実施回数 | 9回 | 10回 |
| | 参加者数 | 延べ92人 | 延べ106人 |
| 地域交流会支援 | 実施回数 | 0回 | 0回 |
| | 参加者数 | 0人 | 0人 |
| 施設貸出 | 貸出回数 | 7回 | 6回 |
| | 参加者数 | 延べ46人 | 延べ37人 |
| 施設開放 | 貸出回数 | 16回 | 16回 |
| | 参加者数 | 延べ138人 | 延べ143人 |

(5) 公益法人として先駆的な役割を果たすための事業の推進

ア 普及啓発事業

| | | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|--|--------------|--------------------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 福祉講演会の参加者率 | 会場定員 90%以上 | 会場定員 31.5% (63人/200人) |
| | 協力会員・登録ボランティア説明会 延べ参加者数 | 60人 | 37人 |
| | 出張説明会 | 12回 | 14回 |
| 評価等 | <p>○福祉講演会 ボランティア活動未経験者の参加を期待しましたが、そのような方へ届く魅力的な広報が不足していたこともあり、目標を達成できませんでした。</p> <p>○協力会員・登録ボランティア説明会延べ参加人数 14回各地域に出張等し、開催しましたが、延べ参加者数は達成できませんでした。</p> <p>○出張説明会 民生児童委員協議会の定例会やひだまりサロン等に出張し、達成できました。</p> | | |

協力会員や登録ボランティアの拡大をするため、市内の地域福祉センター、公民館、福祉施設等、地域に積極的に出張し協力会員募集説明会を開催し、普及啓発に努めました。また、広報紙「ゆうあい」で協力会員募集を特集した広報紙の作成、市内に全戸配布し担い手の募集、発掘に努めました。また、民生児童委員協議会、ひだまりサロン、老人クラブ、自治会等に出張し住民参加型サービスを説明し活用促進に関わる普及啓発に努めました。

地域住民の助け合いによる地域づくりを推進するため、住民同士の仲間づくりの

場の提供や地域活動への参加と支援，また，情報提供など，様々な手法で普及啓発に取組みました。

| 事業名 | | 実施回数 | 参加者数 | 備考 |
|------------------|---|------|-------------|--|
| 福祉講演会 | 市民相互の支え合いとあたたかい地域づくりを目指し，地域福祉・ボランティア活動の啓発 | 年1回 | 63人 | 講演会テーマ「これからの地域共生社会とは～誰もが住みやすいと思える調布を目指して～」 令和2年1月26日(日) |
| 広報 | 機関紙「ゆうあいほっとらいん」 | 年6回 | — | 2,500部/回 |
| | 広報紙「ゆうあい」 | 年2回 | — | 12万5,000部/回 (内12万3,000部を市内全域にポスティング，2,000部を関係機関に配架等) |
| | ホームページ | 随時更新 | — | イベント情報を随時更新 |
| 出張説明会 | | 年14回 | 299人 | 民生児童委員協議会，ひだまりサロン，老人クラブ，自治会等 |
| 協力会員・登録ボランティア説明会 | | 年22回 | 延べ41人 | 「ちょこっとさん」登録ボランティア説明会と共催 |
| 生きがい介護予防講座 | 男性のための料理講座 | 年1回 | 延べ35人 | 5日コース |
| | フォークダンス講座 | 年1回 | 延べ27人 | 4日コース |
| 介護予防社会参加事業 | 「だいこんの会」 | 月1回 | — | 生きがい介護予防講座修了者の自主グループ |
| | ゆうあいフォークダンス友の会「フレンズ」「すみれ」 | 各月3回 | — | |
| 調布市食事サービス連絡会 | 市内配食事業者との連絡会において，情報・課題の共有，課題解決への検討 | 年1回 | 4事業者 90人 | 令和2年1月12日(日) ちょうふ高齢者応援大会試食会 |

| | | | | |
|------------------|---------------------------------------|---------------|---|--|
| 家族介護者支援事業（再掲） | だれでもカフェ（認知症カフェ） | 月1回 （年11回） | 参加者 延べ235人 | ○だれでもカフェこくりょう（毎月第4日曜日） ※10の筋力トレーニング，ハンドベル，ハンドマッサージ，男性介護者のつどい等 ○だれでもカフェふちぼあん（不定期：令和2年2月16日） ※家族介護者向け介護技術講座開催 |
| | 調布市認知症高齢者等を介護するケアラー支援マップの改訂 ※広報に再掲 | 年1回 | 発行12万5,000部（内12万3,000部を市内全域にポスティング，2,000部を関係機関に配架等） | 令和元年8月1日広報紙ゆうあい18号にて第8版を掲載。ケアラーの集い場15件（新規1件），相談窓口，地域密着型サービス，研修会等の情報を掲載 |
| | 家族介護者向け介護技術講座 | 年2回 | 9人 | 「知って安心，自宅での介護のコツ」 ①だれでもカフェこくりょう開催時実施 令和元年7月28日（日） 参加者4人 ②だれでもカフェふちぼあん開催時実施 令和2年2月16日（日） 参加者5人 |
| 認知症サポーター養成講座（再掲） | 認知症サポーター養成講座 | 37回 | 1,159人 | 地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施，キャラバンメイトの調整・派遣 |
| | 認知症サポーターフォローアップ研修 | 1回 | 26人 | 認知症当事者の世界を知るための講義，グループワーク形式の研修 |
| | 認知症サポーターの活躍の場リスト | 1回 | — | 認知症サポーター活躍の場の情報を更新・発行し市内全戸配付 |

イ 人材育成事業

| | | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|---|--------------|------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 協力会員研修延べ参加人数（市民公開講座に参加した市民を含む） | 250人 | 147人 |
| | ゆうあい福祉セミナーの参加人数 | 20人 | - |
| | 介護職カフェ（介護技術勉強会）、及び福祉専門職スキルアップ研修の延べ参加人数（再掲） | 90人 | 327人 |
| 評価等 | <p>○協力会員研修延べ参加人数（市民公開講座に参加した市民を含む） 協力会員研修のうち定例会の参加人数が減少傾向にありました。</p> <p>○ゆうあい福祉セミナーの参加人数 2月に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス拡散防止の観点から、開催を中止致しました。</p> | | |

公社の理念である「市民相互の助け合い」と「自立支援のための質の高いサービスの提供を通じてあたたかい地域づくり」を推進するために、介護の担い手や協力会員及びボランティアの育成，並びに専門資格の取得を目指す実習生の受入れや各種講座・研修等の開催など，様々な「学びの場」を提供し，介護や地域福祉の担い手となる人材育成に努めました。

本事業において，住民参加型在宅福祉サービス事業と地域包括支援センターの事業を併せ持つ公社は，介護保険事業について総合的に学べる法人として，医療，福祉及び教育など裾野の広い分野における育成・実習機関となっています。また，地域においては，各種の講習会・勉強会等に，公社の職員を講師として派遣するなど福祉サービス向上に貢献しています。

| 事業名 | 内容及び内容 | 実施日又は回数 | 参加者数 |
|------------|---|--------------|------|
| ゆうあい福祉セミナー | 親子で作る！「飾り巻き寿司」～楽しく始めよう親子で食育～ 新型コロナウイルス感染症拡散防止のため中止 | 令和2年2月22日（土） | — |
| 実習生の受入れ | 大学，専門学校等から社会福祉援助技術や教員免許取得等の実習 | 80日（延べ日数） | 4人 |
| 福祉専門職講師派遣 | 地域の福祉人材育成を支援するため公社職員を派遣 | 23回 | — |

| | | | | | |
|---------------------|---------------------------------------|----------------------------------|-------------|-----------------|-------|
| 協力会員研修・登録ボランティア研修 | 定例会 | 協力会員の交流を深めるとともに地域づくりの一員としての役割を学ぶ | | 年4回 | 延べ51人 |
| | 基礎研修 | 協力会員登録時に活動のための基礎を学ぶ | | 年15回 | 延べ18人 |
| | 食事サービス | 新人研修 | 調理実地研修 | 8日コース | 2人 |
| | | | 配達実地研修 | 4日コース | 3人 |
| | | スキルアップ研修 | 食品衛生講習 | 1回 | 27人 |
| | | | 調理実習 | 1回 | 24人 |
| | | | 安全運転講習 | 1回 | 21人 |
| | ホームヘルプサービス | スキルアップ研修 | 車いすの介助方法の講習 | 1回 | 1人 |
| 介護予防サロン | 高齢者でも参加できる社会参加の機会提供, 介護予防・地域づくりに向けた支援 | グリーンクラブ | 月2回 | 61人 | |
| | | ゆうあいネット倶楽部 | 週1回 | 延べ136人 | |
| | | おなかまクラブ | 月1回 | 延べ67人 | |
| 認知症サポーター養成講座事業（再掲） | 認知症サポーター養成講座 | | 37回 | 1,159人 | |
| | 認知症サポーターフォローアップ研修 | | 1回 | 26人 | |
| | 認知症サポーターの活躍の場リスト | | 1回 | 更新・発行 | |
| 介護職カフェ（介護技術勉強会）（再掲） | 令和元年7月18日（木） | | | 14人 （参加4事業所） | |
| | 令和元年9月19日（木） | | | 14人 （参加5事業所） | |

| | | |
|-----------------------|---------------|---------------------------------------|
| | 令和元年11月21日(木) | 13人 (参加4事業所) |
| | 令和2年2月20日(木) | 7人 (参加5事業所) |
| 福祉専門職スキル アップ研修(再掲) | 介護技術勉強会 | 令和元年5月16日 (木) 29人 (参加13事業所) |
| | ケアマネカフェ | 令和元年10月24日 (木) 16人 (参加11事業所) |
| | ちょうふ高齢者応援大会 | 令和2年1月12日(日) 234人 (主催者発表) |

ウ 調査研究開発事業

| | | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|--------------------|--------------------------------|--------------|--|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 調査実施数(内部調査, 実証研究調査, 新規・改善事業調査) | 2回 | 2回 (フレイル予防のプレ調査・職員対象に事業提案募集) |
| | 実践活動報告数 | 6回 | 1回 (ちょうふ高齢者応援大会) ※公社で実施しているフレイル予防の取組と, 体力測定の結果をホームページで公開 |
| 評価等 | 実践活動報告数は目標値に達しませんでした。 | | |

フレイル予防調査については、公社で総合事業通所型市基準サービス(市基準)を開始してから一定のデータの蓄積ができたので、外部のデータ分析機関を活用し、その集計結果等を発表することができました。これについては、ホームページでも公開しました。

令和元年度は、総合事業通所型市基準サービス(市基準)を拡充したので、データの蓄積がさらに充実すると推察しています。令和2年度もこれを活用し、工夫した分析での公表を検討して参ります。

令和元年度は、フレイル予防調査の検証・発表に注力したことから、その他の実践活動報告はありませんでした。

| 取組 | 内 容 |
|------------|--|
| 実践活動報告 | ○ 公社事業の実践活動を他団体等へ報告 地域連携会「ちょうふ高齢者応援大会」で「健康寿命を延ばそう！！～フレイル（虚弱）予防の取り組みについて」と題し、調査結果を発表(令和2年1月12日) ※本調査結果については、令和2年2月からホームページで公表 |
| 関係協議会等への参加 | 公社事業の実践活動を生かし、調布市内・外の医療・福祉・介護に関する32協議会等に参画しました。 |

(6) 健全な公社運営

ア 法人運営及び組織体制の強化・充実

平成31年4月から働き方改革関連法が施行されたことに伴い、年次有給休暇の取得義務化、時間外労働の上限規制への対応を進めました。また、同一労働同一賃金（均衡均等待遇の実現）への対応として、「職務分析・職務評価コンサルティング」を活用し、職務（役割）評価を実施し、専門家の指導の下、課題分析を行いました。

地域包括支援センター事業では、令和2年度から、プロポーザル方式による委託になったことから、公社でも調布市地域包括支援センター運營業務委託事業者候補選定プロポーザルに参加し、審査の結果、令和元年9月に委託候補事業者として選定されました。

このほか、令和2年6月に予定している法人総務部門と地域包括支援センターの事務所移転に向けて、準備を進めました。

| | | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|----------------------------|----------------|--------------|---|
| 第2次中期 計画 目標・成果 指標 | 労働安全衛生に関する研修実施 | 2回 | ①8月4日(日)「救急救命講習会」実施、参加者15人 ②10月3日(木)「骨密度測定(ココカラファイン薬局)」実施 参加者54名 |
| | 年次有給休暇の取得促進 | 55% | 78.3% ○付与(時間・日数)に対して50%以上取得できた職員の割合 ・正規職員14/25人 56%(平成31年1月付与から1年間) ・非常勤職員69/81人 85.2%(平成31年4月付与から1年間) |

| | | | |
|-----|---|----------------------|---|
| | 全職員の所定外労働時間（年間） | 1万3,000時間 （10%削減） | 5,447時間 次世代育成支援対策推進行動計画に基づき、ノー残業デー等の取組を推進しました。 |
| | 主任ケアマネジャーの人数 | 3人 | 1人 8月に主任ケアマネジャー推薦申請を行ったが、推薦要件を満たすことができませんでした。 |
| | 全職員の外部研修参加割合 | 45% （10%向上） | 52.7% （59人参加/全職員112人中） |
| 評価等 | 衛生委員会の取組や各種研修の実施により、時間外労働の削減や休暇取得の促進につなげることができました。主任ケアマネジャーについては、職員の退職により1名となり、職員の育成が課題です。このほか、目標値を達成し事業推進が図れました。 | | |

| 区 分 | 内 容 |
|--------------------|--|
| 会員・ボランティア基盤の拡充 | 広報のあり方について検討し、令和2年度から、広報事務を管理係所管にて行う予定です。 |
| PDC Aマネジメントサイクル構築 | 事業進捗状況確認シート・月次損益推移表等を作成し、経過や状況等の把握に努めたほか、適宜理事会等に報告を行いました。 |
| 制度改正などへの対応・検討 | 研修・会議等への参加を通して、情報収集を行い、必要な対応について協議・検討しました。 |
| 労務管理体制の強化 | 衛生委員会等を通しての研修会の実施、次世代育成支援対策推進行動計画の推進に努めました。 |
| 専門資格の取得の促進 | 自身の業務やキャリア形成に生かすことができる資格取得・外部研修等の活用を促しました。 |
| 将来を担える職員の育成 | プロパー職員を対象に、コンプライアンス研修を実施しました。セルフ・キャリアドッグを実施し、職員のキャリア形成・資格取得促進に向けて支援しました。 |
| 財務会計システムリニューアル | 新たな財務会計システムを導入し、経理処理等の業務効率化に努めました。 |
| 危機管理（リスクマネジメント）の強化 | 防災計画（素案）を作成しました。新型コロナウイルス感染症への対応を協議し、拡散防止に向けた対策を実施しました。 |

イ 自主的，自立的経営に向けた財政基盤の強化

訪問介護事業においては，収入は横ばいで推移しましたが，コスト管理を徹底し，安定した収益確保につなげることができました。居宅介護支援事業は，ケアマネジャーの欠員等により減収となりました。

デイサービスぷちぼあん事業は，新規利用の受入等を進めましたが，稼働状況は横ばい傾向となりました。自主事業の合計では，目標である収支均衡を達成することができました。

このほか，職員が個別に訪問し公社理念・事業の説明を行うなど，賛助会員・寄付の獲得に向けた取組を進めました。

| | 項目 | 目標値 令和元年度 | 実績 |
|----------------------------|---|--------------|--|
| 第2次中期 計画 目標・成果 指標 | 自主事業の収支 (3事業合計) | 収支均衡(±0) | 625万7,993円 |
| | モニタリングシート対策達成率 | 70% | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護 75% ・居宅介護支援 87.5% ・ぷちぼあん 51.4% |
| | 賛助会員数 | 210人 | 235人 (内訳 個人227人，8団体) |
| 評価等 | <p>自主事業の収支については，3年連続の収支均衡(黒字)となり，目標を達成しました。モニタリングシート対策達成率については，ぷちぼあんにおいて目標未達となりましたが，これは稼働率の向上，職員体制の整備が不十分であったことが要因で，経営の安定には不可欠なものであり，大きな課題として認識しております。賛助会員数については，前年度と比較し17件増加し，目標を達成しました。</p> | | |

| 区分 | 内容 |
|--------------|--|
| モニタリングシートの活用 | 毎月の目標設定，収支確認。目標値とのかい離要因分析に努めました。 |
| 寄付金収入の拡充 | 令和元年12月に広報紙19号を発行し，住民参加型事業をはじめ公社事業のPRに努めました。寄付金については，目標予算額に達しませんでした。 |
| 賛助会員の拡充 | 広報紙ゆうあいを通して，住民参加型事業等への理解の浸透を図り，賛助会員の拡充に努めました。 |

5 その他の報告事項

(1) 役員等及び会議に関する事項

ア 役員等名簿（令和2年3月31日現在）

(ア) 理事・監事

| 役職名 | 氏名 | 役職名 | 氏名 | 役職名 | 氏名 |
|------|-------|-----|------|-----|-------|
| 理事長 | 花角美智子 | 理事 | 西田伸一 | 理事 | 中里繁夫 |
| 副理事長 | 山口征子 | 理事 | 橋本郁子 | 監事 | 老川多加子 |
| 常務理事 | 涌田宏幸 | 理事 | 泰山涼子 | 監事 | 加瀬亜里 |

(イ) 評議員

| 氏名 | 氏名 | 氏名 | 氏名 |
|-------|------|-------|------|
| 小川時雄 | 小西健博 | 新川太計子 | 柴崎弓子 |
| 佐々木伸彦 | 古屋紀子 | 中島弘子 | 山本雅章 |

イ 会議の開催

(ア) 理事会

| 開催年月日 | 件名 | 結果 |
|-----------------------|--|--|
| 平成31年4月25日 (第1回定時) | <ul style="list-style-type: none"> ・調布市国領高齢者在宅サービスセンター（通所介護及び調布市介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス））運営規程の改正について ・居宅介護支援事業（介護予防支援事業及び調布市介護予防・日常生活支援総合事業における介護予防ケアマネジメント事業）運営規程の改正について ・平成30年度収支補正予算書第1号について ・平成30年度事業報告（案）について ・平成30年度収支決算（案）について ・平成31年度定時評議員会の招集について ・理事長及び常務理事の職務の執行状況について ・総括（3ヶ年）経営再建計画～介護保険事業（自主事業）～について | 承認 承認 承認 可決 可決 可決 報告 報告 |
| 令和元年9月12日 (第2回定時) | <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度収支補正予算書第1号について ・嘱託職員等就業規則の改正（案）について ・ホームヘルパー就業規則の改正（案）について ・家事援助ヘルパー就業規則の改正（案）について ・嘱託職員等就業規則の改正（案）について ・ホームヘルパー就業規則の改正（案）について | 承認 可決 可決 可決 可決 可決 |

| | | |
|---------------------------------|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・家事援助ヘルパー就業規則の改正（案）について ・令和元年度第1回臨時評議員会の招集について ・職員就業規則の改正（案）について ・理事長及び常務理事の職務の執行状況について ・調布市地域包括支援センター運営委託事業者候補選定プロポーザルについて ・人事評価制度の導入について | <p>可決 可決 可決 報告 報告 報告</p> |
| <p>令和2年1月23日 (第3回定時)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・職員の再雇用に関する規程の改正（案）について ・令和元年度第2回臨時評議員会の招集について ・運営状況の報告について（法人運営・事業運営，執行状況及び財務状況，自主事業の決算見込） ・令和元年度上半期苦情解決の状況について ・令和2年度事業計画（素案） ・令和2年度収支予算（素案） | <p>可決 可決 報告 報告 協議 協議</p> |
| <p>令和2年3月12日 (第4回定時)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・職員就業規則の改正（案）について ・嘱託職員等就業規則の改正（案）について ・ホームヘルパー就業規則の改正（案）について ・家事援助ヘルパー就業規則の改正（案）について ・介護職員処遇改善加算に関する取扱い規程の改正（案）について ・処務規程の改正（案）について ・印章規程の改正（案）について ・施設管理規程の改正（案）について ・令和2年度事業計画（案）について ・令和2年度収支予算（案）について ・令和元年度第2回臨時評議員会の招集を中止することについて ・令和元年度決算見込（自主事業）について | <p>可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決 報告</p> |
| <p>令和2年3月27日 (第1回臨時・書面)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・理事候補者の選任について ・第2回臨時評議員会（決議の省略）の開催について | <p>可決 可決</p> |

※「承認」は専決処分に係る案件

(イ) 評議員会

| 開催年月日 | 件名 | 結果 |
|---------------------------|--|------------------|
| <p>令和元年5月10日 (定時)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業報告について ・平成30年度収支決算について | <p>可決 可決</p> |

| | | |
|-------------------------|--|----------------|
| 令和元年9月25日 (第1回臨時) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長及び常務理事の職務の執行状況について ・ 調布市地域包括支援センター運営委託事業者候補選定プロポーザルについて ・ 人事評価制度の導入について | 報告 報告 報告 |
| 令和2年3月31日 (第2回臨時・書面) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事の選任について | 可決 |

(2) 公社外部委員会等一覧表及び実習生受入実績

ア 公社外部委員会等一覧表

| | |
|----|----------------------------------|
| 1 | 調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会 |
| 2 | 調布市地域福祉推進会議 |
| 3 | 調布市高齢者福祉推進協議会 |
| 4 | 「調布市見守りネットワーク事業」関係団体ネットワーク会議Bゾーン |
| 5 | 調布市認知症連携会議 |
| 6 | 認知症対応型通所介護事業所連絡会 |
| 7 | 調布市養護老人ホーム入所判定委員会 |
| 8 | 介護支援専門員調布連絡協議会 |
| 9 | 調布市介護保険認定審査会(委員) |
| 10 | 調布市障害支援区分判定審査会 |
| 11 | 調布市障害者地域自立支援協議会 |
| 12 | 調布市健康危機管理対策本部連絡会 |
| 13 | 調布市社会福祉協議会(評議員) |
| 14 | 調布市高次脳機能障害者支援機関連絡会 |
| 15 | 調布市福祉人材育成センター運営委員会(委員) |
| 16 | 介護保険サービス事業者調布連絡協議会(役員) |
| 17 | 介護保険サービス事業者調布連絡協議会(委員) |
| 18 | 社会福祉法人くすのき会(評議員) |
| 19 | 調布市高齢者救急業務連絡協議会(役員) |
| 20 | 調布消防署住宅防火等推進協議会(役員) |
| 21 | 地域密着型サービス運営推進会議(ケアホーム希望) |
| 22 | 地域密着型サービス運営推進会議(調布八雲苑) |
| 23 | 地域密着型サービス運営推進会議(至誠若葉) |
| 24 | こくりょうみんなの広場(国領小学校地区協議会)運営委員会 |
| 25 | くすのき商店会 |
| 26 | 調布市食事サービス連絡会 |
| 27 | 東京都社会福祉協議会住民参加型たすけあい活動部会(役員) |
| 28 | 東京都社会福祉協議会東京都高齢者福祉施設協議会(会員) |
| 29 | 住民参加型在宅福祉サービス団体全国連絡会 |
| 30 | 調布市地域連携会 |
| 31 | NPO高齢者を支える学術的チームアプローチ推進ネットワーク理事会 |
| 32 | ちょうふ在宅医療相談室運営協議会 |

イ 実習生受入実績

| 学校名等 | 実習名 | 日程 | 日数 | 人数 |
|------------------|----------------------|-------------|------|-----|
| 調布市社会福祉協議会 | 調布市高齢者家事援助ヘルパー養成研修実習 | 7/16～8/2 | 1日 | 5人 |
| | 介護職員初任者研修 | 10/18～11/8 | 1日 | 5人 |
| 法政大学現代福祉学部 | ソーシャルワーク実習 | 8/5～9/5 | 24日 | 1人 |
| 日本大学理工学部 | 介護体験実習 | 8/5～8/9 | 5日 | 2人 |
| 東京学芸大学教育学部 | ソーシャルワーク実習 | 8/13～9/13 | 24日 | 1人 |
| お茶の水女子大学 | 介護体験実習 | 8/19～8/23 | 5日 | 1人 |
| 調布市福祉総務課 | 社会福祉援助技術現場実習 | 8/21～8/23 | 3日 | 3人 |
| 明星大学 | 介護体験実習 | 8/26～11/25 | 5日 | 21人 |
| 公益社団法人東京都看護協会 | 「統合演習Ⅱ」実習 | 9/3 | 1日 | 1人 |
| 慈恵第三看護専門学校 | 在宅介護論実習 | 9/25 | 1日 | 2人 |
| 杏林大学医学部付属看護専門学校 | 在宅看護実習Ⅱ | 10/15～11/22 | 1日 | 4人 |
| 大原医療秘書福祉保育専門学校 | 相談援助実習 | 10/28～4/30 | 24日 | 1人 |
| 桜美林大学健康福祉学群 | 相談援助現場実習 | 1/28～2/6 | 8日 | 1人 |
| 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 | 地域連携実習 | 2/18～2/21 | 2日 | 4人 |
| | | 合計 | 105日 | 52人 |

(3) 職員研修の実績

ア 業務研修

| No. | 研修日 | 研修名 | 主催 | 会場 | 研修日数 | 参加人数 | 参加日数 |
|-----|----------|---|-------------------|-------------------|------|------|------|
| 1 | H31.4.10 | HACCP 基礎研修 | 日本食品衛生協会 | 食品衛生センター | 1 | 2 | 1 |
| 2 | H31.4.16 | 平成31年度東京都認定調査員新規研修 | 東京都 | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 1 | 1 | 1 |
| 3 | H31.4.17 | 働き方改革関連法対応 派遣元・派遣先事業主のための「同一労働同一賃金」ポイント解説 | 東京都労働相談情報センター | 東京都八王子労政会館 | 2 | 1 | 2 |
| 4 | R1.5.9 | 調布市在宅ケアの輪 定例会 | 調布市医師会地域包括ケア研究会 | 調布市医師会館 | 1 | 1 | 1 |
| 5 | R1.5.10 | 地域に根差す中間支援組織スタッフのための支援力アップ塾～スタートアップ編～ | 東京ボランティア・市民活動センター | 飯田橋セントラルプラザ | 1 | 1 | 1 |
| 6 | R1.5.15 | 同一労働同一賃金企業が取り組むべきこと | アデコ | アデコ 新宿センタービル | 1 | 1 | 1 |
| 7 | R1.5.15 | 2019年春の食品フェア | 増田禎司商店 | 八王子京王プラザホテル | 1 | 2 | 1 |
| 8 | R1.5.17 | 働き方改革関連法対応 新任担当者向け就業規則点検&整備の基本ポイント解説 | 東京都労働相談情報センター | 東京都八王子労政会館 | 2 | 1 | 2 |
| 9 | R1.5.22 | ～働き方改革関連法対応～ パートタイム労働者・有期雇用労働者を巡る雇用管理 | 東京都労働相談情報センター | ゲートシティ大崎ウエストタワー | 2 | 1 | 2 |
| 10 | R1.5.22 | 事例検討会 | 居宅支援事業所 | ときわぎ国領 | 1 | 1 | 1 |
| 11 | R1.5.24 | 労働セミナー「労働法基礎セミナーin国分寺」 | 東京都労働相談情報センター | 東京都国分寺労政会館 | 2 | 1 | 2 |
| 12 | R1.5.25 | 一般社団法人 日本認知症ケア学会 第20回大会 認知症という希望 | 日本認知症ケア学会 | 国立京都国際会館 | 2 | 1 | 2 |
| 13 | R1.5.29 | 健康づくり調理研修会 | 東京都多摩府中保健所 | 多摩府中保健所 | 2 | 1 | 2 |

| | | | | | | | |
|----|---------|---|--------------------------------|-------------------|---|---|---|
| 14 | R1.5.30 | 同一労働同一賃金企業が取り組むべきこと | アデコ | アデコ 新宿センタービル | 1 | 1 | 1 |
| 15 | R1.6.5 | 日々の業務の中にある地域とつながるヒント | 東京都高齢者福祉施設協議会 | 研究社英語センター | 1 | 1 | 1 |
| 16 | R1.6.6 | 360度人事評価と管理 | キャノンシステムアンドサポート | キャノンプラザS | 1 | 1 | 1 |
| 17 | R1.6.6 | 新・特定処遇改善加算の全解説と8月提出期限の改善計画書セミナー | C-MA S 東京中央事務所 | アルカディア市谷私学会館 | 1 | 1 | 1 |
| 18 | R1.6.6 | 平成31年度新任係長職実務研修 | 調布市 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 1 | 1 |
| 19 | R1.6.7 | 平成31年度新任係長職実務研修 | 調布市 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 1 | 1 |
| 20 | R1.6.10 | 高齢者虐待の防止について 支援者として知っておきたいこと | 調布市地域包括支援センター | 調布市文化会館たづくり | 1 | 2 | 1 |
| 21 | R1.6.12 | 労働セミナー【月間事業】女性活躍推進のための法知識とハラスメント対策】 | 東京都労働相談情報センター | 東京都八王子労政会館 | 2 | 1 | 2 |
| 22 | R1.6.13 | まちづくりのために今、専門職にできること みま〜もの取組を通して | 調布在宅ケアの輪 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 1 | 1 |
| 23 | R1.6.19 | 平成31年度東京都地域包括支援センター職員研修(初任者研修) | 東京都福祉保健財団 | 東京都福祉保健財団 | 2 | 1 | 2 |
| 24 | R1.6.20 | ～しなやかな心で働くために～ハラスメントを理解してメンタルヘルスケアから始めよう | 東京都労働相談情報センター | ワイム貸会議室 高田馬場 | 2 | 1 | 2 |
| 25 | R1.6.24 | ハラスメントのトラブルへの対処法 | 東京都労働局 | 国分寺労政会館 | 2 | 1 | 2 |
| 26 | R1.7.2 | 若年性認知症相談支援研修 | 東京都福祉保健局 | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 1 | 1 | 1 |
| 27 | R1.7.6 | 個別機能訓練の考え方と効果的な機能訓練アプローチ | gene | gene 本社 | 1 | 1 | 1 |
| 28 | R1.7.9 | 第4回 栄養管理講習会 | 東京都多摩府中保健所 | 多摩府中保健所 | 1 | 1 | 1 |
| 29 | R1.7.10 | 一万人の経営者・人事担当者に選ばれた人事評価を学ぶセミナー | あしたのチーム | あしたのチーム本社 | 1 | 1 | 1 |
| 30 | R1.7.18 | 介護支援専門員調布市連絡協議会 令和元年度第一回研修会 | 介護支援専門員調布市連絡協議会 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 3 | 1 |
| 31 | R1.7.23 | 職場のハラスメント(セクハラ・パワハラ等)対策セミナー | 職場のハラスメント(セクハラ・パワハラ等)対策セミナー事務局 | 日本教育会館 | 1 | 1 | 1 |
| 32 | R1.7.23 | 福祉職員 初任者研修 | 調布市社会福祉協議会 | 調布市こころの健康支援センター | 1 | 5 | 1 |
| 33 | R1.7.25 | 住民参加型たすけあい活動部会 コーディネーター学習会 | 東京都社会福祉協議会 | 飯田橋セントラルプラザ | 1 | 1 | 1 |
| 34 | R1.7.30 | 経営協セミナー(前期) | 東京都社会福祉協議会 社会福祉法人経営者協議会 | あいおいニッセイ同和損保新宿ビル | 1 | 1 | 1 |
| 35 | R1.7.31 | 『障害者雇用宇研修&eラーニング』体験セミナー | パーソル総合研究所 | 東京ミッドタウン・カンファレンス | 1 | 1 | 1 |
| 36 | R1.7.31 | 令和元年度ケアマネジメントの質向上研修 | 介護支援専門員研究協議会 | ルミエール府中 | 1 | 1 | 1 |
| 37 | R1.8.1 | 同一労働同一賃金企業が取り組むべきこと | アデコ | アデコ 新宿センタービル | 1 | 1 | 1 |
| 38 | R1.8.6 | 介護職員等特定処遇改善加算に係る研修会 | 調布市福祉健康部高齢者支援室 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 2 | 1 |
| 39 | R1.8.6 | 面接メソッドセミナー | エン・ジャパン | エン・ジャパン | 1 | 1 | 1 |
| 40 | R1.8.14 | 2019年度第1期東京都介護支援専門員専門研修課程II | 東京都福祉保健財団 | ルミエール府中 | 6 | 2 | 6 |
| 41 | R1.8.18 | 日本予防理学療法学会 第5回サテライト集会 | 日本予防理学療法学会 | 筑波大学東京キャンパス | 1 | 1 | 1 |
| 42 | R1.8.20 | ベテランのためのビジネスマナー研修 | インソース | 駿河台ヤギビル | 1 | 1 | 1 |
| 43 | R1.8.22 | セルフ・キャリアドック説明会 | セルフ・キャリアドック説明会 | 大原学園 | 1 | 1 | 1 |
| 44 | R1.8.22 | 面接メソッドセミナー | エン・ジャパン | エン・ジャパン | 1 | 1 | 1 |
| 45 | R1.8.22 | 令和元年度 福祉事業所のための研修体系確立・推進研修～研修の基本を学び職場研修の体制を作ろう～ | 東京都社会福祉協議会 | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 2 | 1 | 2 |
| 46 | R1.8.25 | 令和元年度自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議実践者要請研修事業 | 東京都福祉保健財団 | 東京都福祉保健財団 | 2 | 1 | 2 |
| 47 | R1.8.26 | 経営者・人事のための成長志向の組織を作る人事戦略セミナー | エン・ジャパン | エン・ジャパン | 1 | 1 | 1 |
| 48 | R1.8.26 | 年末調整の業務効率化、電子申請・電子申告、雇用契約の効率化等の研修 | エフアンドコム | エフアンドコム東京本社 | 1 | 1 | 1 |

| | | | | | | | |
|----|------------|--|---|---------------------------|---|---|---|
| 49 | R1. 8. 26 | 分野を超えた相談支援体制づくり～地域共生社会の実現のために～ | 東京都福祉保健局 | 東京都健康プラザハイジア | 1 | 1 | 1 |
| 50 | R1. 8. 27 | 消費税軽減税率実務対応セミナー（東京Ⅲ） | 公益法人協会 | 仏教伝道センタービル | 1 | 1 | 1 |
| 51 | R1. 8. 28 | 人事評価制度セミナー | あしたのチーム | ギンザシックス | 1 | 1 | 1 |
| 52 | R1. 9. 6 | 令和元年度全国労働衛生週間説明会 | 東京労働基準協会連合会 | 武蔵野スイングホール | 1 | 1 | 1 |
| 53 | R1. 9. 9 | 令和元年度認知症介護研究・研修東京センター研究成果報告会「認知症ケアセミナー」認知症地域共生社会をつくる | 浴風会認知症介護研究・研修東京センター | 浴風会認知症介護研究・研修東京センター | 1 | 1 | 1 |
| 54 | R1. 9. 10 | 新任の役員・職員の方に一度は聞いて欲しい話 | 公益法人協会 | 中央大学駿河台記念館 | 1 | 1 | 1 |
| 55 | R1. 9. 10 | 男女脳差理解によるダイバーシティ・コミュニケーション研修 | パーソル総合研究所 | 東京ミッドタウン・カンファレンス | 1 | 1 | 1 |
| 56 | R1. 9. 12 | 2019年度地域ケア会議 第1回「かかわりづらさ」につながる精神疾患 | 調布市地域包括支援センターせいじゅ | 調布市地域包括支援センターせいじゅ | 1 | 1 | 1 |
| 57 | R1. 9. 12 | 令和元年度区市町村職員等高齢者権利擁護研修「擁護者による高齢者虐待対応研修（基礎研修・第二回）」 | 東京都福祉保健財団 | あいおいニッセイ同和損保新宿ビル | 1 | 1 | 1 |
| 58 | R1. 9. 13 | MBOの失敗事例と人事評価の最新事例から学ぶ | カオナビ | カオナビ本社 | 1 | 1 | 1 |
| 59 | R1. 9. 17 | 公益法人・一般法人 会計セミナー「実務編」 | 公益法人協会 | 中央大学駿河台記念館 | 2 | 1 | 2 |
| 60 | R1. 9. 19 | 労働契約等解説セミナー | 厚生労働省 | 東京中小企業会館講堂 | 1 | 1 | 1 |
| 61 | R1. 9. 24 | 求職者の心に届く広報活動とは 広報力を高め採用に強い組織をつくる | 東京都福祉人材センター | 家の光会館 | 1 | 1 | 1 |
| 62 | R1. 9. 26 | 「lon1 ミーティング」体験型セミナー | シーグリーン | 貸会議場 シアル | 1 | 1 | 1 |
| 63 | R1. 9. 27 | 第46回 国際福祉機器展 H.C.R. 2019 | 全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会 | 東京ビッグサイト | 1 | 3 | 1 |
| 64 | R1. 10. 1 | 介護支援専門員専門研修課程 I | 東京都福祉保健財団 | 東京都福祉保健財団 | 7 | 1 | 7 |
| 65 | R1. 10. 2 | 住民参加型たすけあい活動部会 コーディネーター学習会 | 東京都社会福祉協議会 | 飯田橋セントラルプラザ | 1 | 1 | 1 |
| 66 | R1. 10. 3 | 令和元年度多摩地区障害者雇用促進セミナー | 多摩地区ハローワーク | 立川地方合同庁舎ハローワーク立川 | 1 | 1 | 1 |
| 67 | R1. 10. 3 | 令和元年度調布市介護支援専門員研修スーパービジョン研修 | 調布市 | 10/3 たづくり 11/7 あくろすホール | 2 | 2 | 2 |
| 68 | R1. 10. 6 | 令和元年度自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議実践者要請研修事業 | 東京都福祉保健財団 | 東京都福祉保健財団 | 2 | 1 | 2 |
| 69 | R1. 10. 7 | 令和元年度社会保障・人口問題基礎講座 | 厚生労働統計協会 | 品川フロントビル | 3 | 1 | 3 |
| 70 | R1. 10. 8 | 生産性向上セミナー | ニコハチ | 秋葉原UDX | 1 | 1 | 1 |
| 71 | R1. 10. 8 | ファンリテーター育成4日間講座 | 全国援助職ネットワーク | 飯田橋セントラルプラザ | 4 | 1 | 4 |
| 72 | R1. 10. 8 | 令和元年度第3回 東京都キャラバン・メイト養成研修 | 東京都福祉保健局 | 国立オリンピック記念青少年総合センター | 1 | 1 | 1 |
| 73 | R1. 10. 8 | 報連相で極めるビジネスコミュニケーション講座 | 東京商工会議所 | 丸の内二重橋ビル 東京商工会議所 | 1 | 1 | 1 |
| 74 | R1. 10. 9 | 令和元年度社会保障・人口問題基礎講座 | 基礎講座事務局 厚生労働統計協会 | 品川フロントビル | 1 | 1 | 1 |
| 75 | R1. 10. 10 | 介護支援専門員調布市連絡協議会 令和元年度第二回研修会 多職種連携の仕方を学ぶ | 介護支援専門員調布市連絡協議会 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 2 | 1 |
| 76 | R1. 10. 11 | 新任の役員・職員のための制度運営セミナー | 公益法人協会 | 仏教伝道センタービル | 1 | 1 | 1 |
| 77 | R1. 10. 15 | 給与決定ルールに関するセミナー | あしたのチーム | あしたのチーム本社 | 1 | 1 | 1 |
| 78 | R1. 10. 17 | 「ちようふ在宅ネット」MC S体験会 | 調布市医師会 | 調布市医師会館 | 1 | 5 | 1 |
| 79 | R1. 10. 19 | 第6回日本予防理学療法学会学術大会 | 日本予防理学療法学会 | 広島国際会議場 | 2 | 1 | 2 |
| 80 | R1. 10. 23 | 事例検討会 | 調布市医師会, ちようふ花ぞの, ちようふの里, ケア21, 狛江ひだまり, ゆうあい福祉公社 | ときわぎ国領 | 1 | 2 | 1 |
| 81 | R1. 10. 23 | 平成31年度 調布市認定調査員 新規研修 | 調布市福祉健康部 高齢者支援室 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 2 | 1 |
| 82 | R1. 10. 23 | 福祉職員 管理職・施設長研修 | 調布市社会福祉協議会 | 調布市こころの健康支援センター | 1 | 1 | 1 |
| 83 | R1. 10. 24 | 「lon1 ミーティング」体験型セミナー | シーグリーン | 貸会議場 シアル | 1 | 1 | 1 |

| | | | | | | | |
|-----|----------|---|------------------------------|------------------------------------|---|---|---|
| 84 | R1.10.28 | 区市町村等福祉用具事業説明会 | 東京都福祉保健財団 | 東京都福祉保健財団 | 1 | 1 | 1 |
| 85 | R1.10.28 | 公益・一般法人の実践簿記会計講座(基礎コース) | 全国公益法人協会 | 日本教育会館 | 1 | 1 | 1 |
| 86 | R1.10.28 | キャリアパス対応生涯研修課程《福祉職員職務階層別研修》「チームリーダー研修」 | 東京都社会福祉協議会 | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 2 | 1 | 2 |
| 87 | R1.10.30 | 高次脳機能障がい事例検討会 | 調布市社会福祉協議会 障害者地域活動支援センタードルチェ | 調布市総合福祉センター | 1 | 1 | 1 |
| 88 | R1.10.30 | 労働契約等解説セミナー | 厚生労働省 | 東京中小企業会館講堂 | 1 | 1 | 1 |
| 89 | R1.10.31 | キャリアパス対応生涯研修課程《福祉職員職務階層別研修》「チームリーダー研修」 | 東京都社会福祉協議会 | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 2 | 1 | 2 |
| 90 | R1.11.1 | 過重労働解消のためのセミナー | 過重労働解消セミナー運営事務局 | 新宿区 LEC 新宿エルタワー | 1 | 1 | 1 |
| 91 | R1.11.8 | 自社内における“同一労働同一賃金”実務対応セミナー | アデコ | アデコ 新宿センタービル | 1 | 1 | 1 |
| 92 | R1.11.8 | 住民参加型たすけあい活動部会 コーディネーター学習会 | 東京都社会福祉協議会 | 飯田橋セントラルプラザ | 1 | 1 | 1 |
| 93 | R1.11.14 | 心理学×脳科学でストレスに強い社員を育成する～レジリエンスを高めるマネジメント手法～ | キャノンシステムアンドサポート | PC視聴 | 1 | 1 | 1 |
| 94 | R1.11.14 | 年末調整等説明会 | 東京国税局 | 調布市グリーンホール | 1 | 3 | 1 |
| 95 | R1.11.15 | 障害者雇用支援セミナー | 東京都労働局 | 新宿エルタワーサンスカイルーム | 1 | 1 | 1 |
| 96 | R1.11.17 | 2019年度日本認知症ケア学会関東ブロック大会「認知症の人のエンパワメントを最高する」 | 日本認知症ケア学会 | 幕張メッセ国際会議場 | 1 | 1 | 1 |
| 97 | R1.11.19 | キャリアパス制度と特定加算を活用した人事管理 | 東京都高齢者福祉施設協議会 | 家の光会館 | 1 | 1 | 1 |
| 98 | R1.11.21 | Ai時代の人事労務における戦略的データ活用 | 首都大学東京オープンユニバーシティ | エン・ジャパン | 1 | 1 | 1 |
| 99 | R1.11.21 | 適性テスト活用ノウハウセミナー | エン・ジャパン | エン・ジャパン | 1 | 1 | 1 |
| 100 | R1.11.21 | 民法改正がビジネスに与える影響への対策 | 東京商工会議所渋谷支部 | 渋谷区商工会館 | 1 | 1 | 1 |
| 101 | R1.11.21 | 労災保険実務講座 | 東京労働基準協会連合会 | 武蔵野スイングホール | 1 | 2 | 1 |
| 102 | R1.11.22 | 過重労働解消のためのセミナー | LEC 東京リーガルマインド | LEC 新宿エルタワー本校 | 1 | 1 | 1 |
| 103 | R1.11.23 | 高齢者の食環境整備事業 | 東京都福祉保健局 | 社会福祉法人緑風会 緑風壮病院 | 2 | 1 | 2 |
| 104 | R1.11.27 | 公益法人・一般法人のための『経理入門』講座 | 全国公益法人協会 | 公社 | 1 | 2 | 1 |
| 105 | R1.11.27 | 公益法人のための立入検査総合対策実施研修 | 全国公益法人協会 | 公社 | 1 | 2 | 1 |
| 106 | R1.12.3 | 平成31年度安全運転管理者法定講習 | 東京都安全協会 | なかのZEROホール | 1 | 1 | 1 |
| 107 | R1.12.4 | 公正採用選考人権啓発推進員研修会 | ハローワーク府中 | ルミエール府中 | 1 | 1 | 1 |
| 108 | R1.12.5 | KDDI オフィスフェア | KDDI まとめてオフィス | 日本橋プラザビル | 1 | 1 | 1 |
| 109 | R1.12.5 | 人材開発の新常識！教えない育成法 | バーソル総合研究所 | AP 新橋 | 1 | 1 | 1 |
| 110 | R1.12.6 | 配るマネジメント研修 | バーソル総合研究所 | 東京ミッドタウン・カンファレンス | 1 | 1 | 1 |
| 111 | R1.12.6 | 福祉職員定着・育成セミナー | 東京都福祉人材センター | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 1 | 1 | 1 |
| 112 | R1.12.7 | 第27回ニッセイ財団高齢社会ワークショップ | 日本生命財団 | 日本生命日比谷ビル | 1 | 1 | 1 |
| 113 | R1.12.8 | 第33回ニッセイ財団シンポジウム『高齢社会を共に生きる』 | 日本生命財団 | イイノホール | 1 | 1 | 1 |
| 114 | R1.12.10 | シミュレーション体験研修 | バーソル総合研究所 | 東京ミッドタウン・カンファレンス | 1 | 1 | 1 |
| 115 | R1.12.10 | 地域人材育成講座 明日から実践!みんなで決める効果的な会議の方法 | 調布市民プラザあくろす | 調布市民プラザあくろす | 2 | 4 | 2 |
| 116 | R1.12.12 | 気づけないサイバー攻撃を見つけ、リスクを軽減するセキュリティ対策とは | 富士通 | FUJITSU SECURITY INITIATIVE CENTER | 1 | 1 | 1 |
| 117 | R1.12.12 | 居宅系サービス向け 高齢者虐待防止研修 | 東京都福祉保健局 | 練馬文化センター | 1 | 4 | 1 |
| 118 | R1.12.12 | 高齢者の食環境整備事業 | 東京都福祉保健局 | 国立大学法人東京医科歯科大学 | 2 | 1 | 2 |
| 119 | R1.12.12 | 社会保険の電子申請義務化・労基法対策の徹底解説! | エフアンドエムPCA | PC視聴 | 1 | 2 | 1 |

| | | | | | | | |
|-----|------------|---|-------------------------------------|---------------------------------|---|---|---|
| 120 | R1. 12. 12 | 職場のハラスメントから身を守ろう | 東京都労働相談情報センター | 東京都八王子労政会館 | 2 | 1 | 2 |
| 121 | R1. 12. 12 | ハーバード流「交渉学」体験セミナー | パーソル総合研究所 | 東京ミッドタウン・カンファレンス | 1 | 1 | 1 |
| 122 | R1. 12. 14 | 地域包括支援センターで働く看護職のための交流会 | 東京都看護協会 | 東京都看護協会 | 1 | 1 | 1 |
| 123 | R1. 12. 18 | 令和元年度東京都地域包括支援センター職員研修 | 東京都福祉保健財団 | 東京都福祉保健財団 | 2 | 1 | 2 |
| 124 | R1. 12. 24 | 自立支援・重度化防止に向けた主任介護支援専門員・保険者研修 | 東京都介護支援専門員研究協議会 | ベルサール神保町 | 3 | 1 | 3 |
| 125 | R2. 1. 16 | 令和元年度家庭裁判所研修・関係機関連絡会 | 多摩南部成年後見センター | 調布市総合福祉センター | 1 | 1 | 1 |
| 126 | R2. 1. 17 | 平成 31 年度栄養管理講習会 (9 回) | 東京都多摩府中保健所 | 多摩府中保健所 | 1 | 1 | 1 |
| 127 | R2. 1. 18 | 実践力 UP 事例検討会『保健指導ミーティング』ファシリテーター養成講座 | 東京都看護協会保健師職能委員会 東京都看護協会多摩南地区支部共済 | 東海大学医学部付属八王子病院 | 1 | 1 | 1 |
| 128 | R2. 1. 18 | 地域における認知症対応実践講座 | 日本認知症ケア学会 ユーザイ | CICV 研修センター 日本橋 | 1 | 1 | 1 |
| 129 | R2. 1. 20 | マネジメントスタンダードプログラム for kaigo | シルバーウッド | 赤坂インターシティ アイコンファレンス GREEN | 1 | 1 | 1 |
| 130 | R2. 1. 21 | 食品衛生実務講習会 | 東京都多摩府中保健所 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 1 | 1 |
| 131 | R2. 1. 23 | 2019 年第 17. 18. 19. 20 回東京都認知症介護実践者研修 | 東京都福祉保健局 | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 6 | 1 | 6 |
| 132 | R2. 1. 30 | 伝わるデザインと情報発信の極意 | 調布地域情報化推進協議会 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 1 | 1 |
| 133 | R2. 1. 31 | リ・アセスメント支援シートを活用したケアプランの作成 | 調布市福祉健康部 高齢者支援室 | 調布市文化会館たづくり | 2 | 4 | 1 |
| 134 | R2. 2. 3 | スーパービジョン研修社会福祉の専門家としての職員の成長を支える～人と職場の育ち方解決志向アプローチを活用～ | 東京都社会福祉協議会 | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 1 | 1 | 1 |
| 135 | R2. 2. 4 | 消費税申告の実務 | 公益法人協会 | 仏教伝道センター ビル | 1 | 1 | 1 |
| 136 | R2. 2. 5 | 食品衛生実務講習会 | 多摩府中保健所 | 武蔵野公会堂ホール | 1 | 1 | 1 |
| 137 | R2. 2. 5 | 36 協定届出書作成方法及び働き方改革に関するセミナー | 東京労働局労働基準部監督課 | T K P スター会議室 | 1 | 2 | 1 |
| 138 | R2. 2. 6 | 管理職員研修 | 東京都社会福祉協議会 | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 2 | 1 | 2 |
| 139 | R2. 2. 7 | 介護支援専門員 再研修 | 東京都福祉保健財団 | 東京都福祉保健財団 | 6 | 1 | 3 |
| 140 | R2. 2. 7 | 公益法人の運営等に関する説明会 | 東京都生活文化局 都民生活部管理法人課 | 東京都消費生活総合センター | 1 | 1 | 1 |
| 141 | R2. 2. 7 | 認知症の人による社会参加活動推進フォーラム～認知症地域支援推進員のチャレンジ～ | 認知症介護研究・研修東京センター | 有楽町朝日ホール | 1 | 1 | 1 |
| 142 | R2. 2. 13 | 現場で『本音の』認知症 | 調布市在宅ケアの輪 | 調布市民プラザ あくろす | 1 | 1 | 1 |
| 143 | R2. 2. 13 | ゲームで学ぶ「お金をかけずに生産性を向上させる方法」 | キャノンシステム アンドサポート | P C 視聴 | 1 | 1 | 1 |
| 144 | R2. 2. 13 | スーパービジョン研修社会福祉の専門家としての職員の成長を支える～人と職場の育ち方解決志向アプローチを活用～ | 東京都社会福祉協議会 | 東京都社会福祉保険医療研修センター | 1 | 1 | 1 |
| 145 | R2. 2. 14 | 管理職のためのメンタルヘルス講習 | 東京都社会福祉協議会 | 東京都医師会館 | 1 | 1 | 1 |
| 146 | R2. 2. 15 | 2019 年度 (新) 連携強化研修 精神的な課題を持つ家族と高齢者をチームで支える～虐待と看保連携 | 東京都看護協会 | 東京都看護協会 | 1 | 1 | 1 |
| 147 | R2. 2. 21 | 「パラハートちょうふ 2020」障害者差別解消法職員研修 | 調布市障害福祉課 | 調布市文化会館たづくり | 1 | 2 | 1 |

イ 社内研修

| No. | 研修日 | 研修名 | 主催 | 会場 | 研修日数 | 参加人数 | 参加日数 |
|-----|----------|---------|----|----|------|------|------|
| 1 | R1. 8. 4 | 普通救命講習会 | 公社 | 公社 | 1 | 15 | 1 |

(4) 事業報告書附属明細書について 該当なし

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位：円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増 減 |
|-------------|-------------|-------------|--------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 117,350,812 | 101,427,215 | 15,923,597 |
| 現金 | 118,251 | 57,480 | 60,771 |
| 小口現金 | 169,276 | 110,707 | 58,569 |
| 普通預金 | 117,063,285 | 101,259,028 | 15,804,257 |
| 未収金 | 25,510,922 | 28,934,272 | △ 3,423,350 |
| 前払金 | 155,000 | 155,000 | 0 |
| 立替金 | 106,000 | 26,250 | 79,750 |
| 流動資産合計 | 143,122,734 | 130,542,737 | 12,579,997 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 普通預金 | 273,000 | 273,000 | 0 |
| 投資有価証券 | 299,727,000 | 299,727,000 | 0 |
| 基本財産合計 | 300,000,000 | 300,000,000 | 0 |
| (2) 特定資産 | | | |
| 事業運営基金 | 16,776,620 | 16,776,620 | 0 |
| 特定資産合計 | 16,776,620 | 16,776,620 | 0 |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 構築物 | 1 | 1 | 0 |
| 建物附属設備 | 2,170,350 | 2,504,250 | △ 333,900 |
| 什器備品 | 898,680 | 1,051,988 | △ 153,308 |
| リース資産 | 13,703,688 | 5,619,240 | 8,084,448 |
| ソフトウェア | 1,221,201 | 1,532,997 | △ 311,796 |
| 電話加入権 | 445,536 | 445,536 | 0 |
| その他固定資産合計 | 18,439,456 | 11,154,012 | 7,285,444 |
| 固定資産合計 | 335,216,076 | 327,930,632 | 7,285,444 |
| 資産合計 | 478,338,810 | 458,473,369 | 19,865,441 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未払金 | 21,633,775 | 32,027,585 | △ 10,393,810 |
| 前受金 | 90,000 | 177,040 | △ 87,040 |
| 預り金 | 4,199,031 | 8,038,395 | △ 3,839,364 |
| 点数預託預り金 | 0 | 981,911 | △ 981,911 |
| 調布市預り金 | 51,254,112 | 31,904,405 | 19,349,707 |
| 未払消費税 | 0 | 1,081,700 | △ 1,081,700 |
| 短期リース債務 | 3,981,312 | 1,568,160 | 2,413,152 |
| 流動負債合計 | 81,158,230 | 75,779,196 | 5,379,034 |
| 2. 固定負債 | | | |
| 長期リース債務 | 9,722,376 | 4,051,080 | 5,671,296 |
| 固定負債合計 | 9,722,376 | 4,051,080 | 5,671,296 |
| 負債合計 | 90,880,606 | 79,830,276 | 11,050,330 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | | | |
| 寄付金 | 300,000,000 | 300,000,000 | 0 |
| 指定正味財産合計 | 300,000,000 | 300,000,000 | 0 |
| 2. 一般正味財産 | | | |
| 一般正味財産 | 87,458,204 | 78,643,093 | 8,815,111 |
| 正味財産合計 | 387,458,204 | 378,643,093 | 8,815,111 |
| 負債及び正味財産合計 | 478,338,810 | 458,473,369 | 19,865,441 |

正味財産増減計算書

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

公益目的事業会計

(単位：円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増 減 |
|-----------------------|-------------|-------------|--------------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 基本財産運用益 | 1,186,000 | 1,428,021 | △ 242,021 |
| 基本財産受取利息 | 1,186,000 | 1,428,021 | △ 242,021 |
| 基本財産受取利息 | 1,186,000 | 1,428,021 | △ 242,021 |
| 受取会費 | 540,000 | 506,000 | 34,000 |
| 受取賛助会員会費 | 540,000 | 506,000 | 34,000 |
| 受取賛助会員会費収益 | 540,000 | 506,000 | 34,000 |
| 事業収益 | 321,335,358 | 340,733,372 | △ 19,398,014 |
| 有償福祉サービス収益 | 38,853,875 | 39,840,492 | △ 986,617 |
| ホームヘルプサービス利用収益 | 6,534,720 | 8,926,600 | △ 2,391,880 |
| 利用会員費収益 | 3,488,000 | 3,386,000 | 102,000 |
| 協力会員費収益 | 266,000 | 268,700 | △ 2,700 |
| 食事サービス利用収益 | 28,565,155 | 27,259,192 | 1,305,963 |
| 介護保険事業収益 | 97,886,225 | 108,956,815 | △ 11,070,590 |
| 居宅介護支援事業収益 | 18,402,849 | 21,644,989 | △ 3,242,140 |
| 訪問介護事業収益 | 50,149,175 | 50,907,881 | △ 758,706 |
| デイサービスぷちぼあん事業収益 | 29,334,201 | 36,403,945 | △ 7,069,744 |
| 地域包括支援センター事業収益 | 9,821,138 | 9,150,090 | 671,048 |
| 介護予防プラン収益 | 9,821,138 | 9,150,090 | 671,048 |
| 軽度生活援助事業収益 | 901,992 | 807,046 | 94,946 |
| 軽度生活援助見守り事業収益 | 901,992 | 807,046 | 94,946 |
| 介護保険認定調査事業収益 | 199,360 | 272,160 | △ 72,800 |
| 認定調査収益 | 199,360 | 272,160 | △ 72,800 |
| 障害者訪問介護事業収益 | 9,771,302 | 10,705,972 | △ 934,670 |
| 障害者訪問介護事業収益 | 9,771,302 | 10,705,972 | △ 934,670 |
| 受託事業収益 | 163,901,466 | 171,000,797 | △ 7,099,331 |
| 地域包括支援センター受託事業収益 | 35,803,077 | 36,250,607 | △ 447,530 |
| 見守りネットワーク受託事業収益 | 2,740,000 | 2,753,000 | △ 13,000 |
| 在宅サービスセンター受託事業収益 | 116,433,887 | 122,636,490 | △ 6,202,603 |
| 市基準通所型サービス受託事業収益 | 6,075,258 | 6,431,412 | △ 356,154 |
| 認知症サポーター養成講座受託事業収益 | 2,849,244 | 2,929,288 | △ 80,044 |
| 受取補助金等 | 169,701,680 | 186,710,177 | △ 17,008,497 |
| 受取地方公共団体補助金収益 | 169,701,680 | 186,710,177 | △ 17,008,497 |
| 受取地方公共団体補助金（高齢） | 169,701,680 | 186,710,177 | △ 17,008,497 |
| 受取負担金 | 6,353,884 | 8,333,792 | △ 1,979,908 |
| 受取負担金収益 | 6,353,884 | 8,333,792 | △ 1,979,908 |
| 受取負担金(会員交流事業) | 5,500 | 8,500 | △ 3,000 |
| 受取負担金(生活支援コーディネート事業) | 35,700 | 40,500 | △ 4,800 |
| 受取負担金(デイサービスぷちぼあん事業) | 1,526,500 | 1,876,500 | △ 350,000 |
| 受取負担金(在宅サービスセンター受託事業) | 4,401,504 | 5,835,427 | △ 1,433,923 |
| 受取負担金(普及啓発事業) | 71,400 | 116,700 | △ 45,300 |
| 受取負担金(人材育成事業) | 313,280 | 456,165 | △ 142,885 |

| | | | |
|------------|-------------|-------------|--------------|
| 受取寄附金 | 496,064 | 1,022,377 | △ 526,313 |
| 受取寄附金 | 496,064 | 1,022,377 | △ 526,313 |
| 受取寄附金 | 496,064 | 1,022,377 | △ 526,313 |
| 雑収益 | 2,022,618 | 1,490,670 | 531,948 |
| 雑収益 | 2,022,618 | 1,490,670 | 531,948 |
| 雑収益 | 2,022,618 | 1,490,670 | 531,948 |
| 經常収益計 | 501,635,604 | 540,224,409 | △ 38,588,805 |
| (2) 經常費用 | | | |
| 事業費 | 422,345,927 | 448,412,459 | △ 26,066,532 |
| 役員報酬 | 3,938,907 | 3,946,278 | △ 7,371 |
| 給料手当 | 66,878,400 | 64,591,434 | 2,286,966 |
| 職員手当 | 54,956,933 | 58,868,350 | △ 3,911,417 |
| 臨時雇賃金 | 148,450,896 | 162,868,297 | △ 14,417,401 |
| 退職金共済掛金 | 5,875,000 | 6,385,000 | △ 510,000 |
| 法定福利費 | 37,916,373 | 41,262,336 | △ 3,345,963 |
| 福利厚生費 | 1,332,600 | 1,366,999 | △ 34,399 |
| 旅費交通費 | 147,101 | 131,609 | 15,492 |
| 研修費 | 122,800 | 156,400 | △ 33,600 |
| 協力会員活動費 | 25,815,950 | 28,421,900 | △ 2,605,950 |
| 通信運搬費 | 4,825,866 | 5,554,787 | △ 728,921 |
| 減価償却費 | 316,791 | 30,978 | 285,813 |
| 減価償却費(リース) | 3,467,393 | 1,223,165 | 2,244,228 |
| 消耗器具備品費 | 460,566 | 0 | 460,566 |
| 消耗品費 | 3,988,400 | 4,407,937 | △ 419,537 |
| 食材費 | 14,761,674 | 15,061,340 | △ 299,666 |
| 修繕費 | 1,033,794 | 943,723 | 90,071 |
| 印刷製本費 | 2,484,590 | 2,036,287 | 448,303 |
| 燃料費 | 1,370,823 | 1,257,126 | 113,697 |
| 光熱水料費 | 9,211,299 | 9,981,524 | △ 770,225 |
| 賃借料 | 12,938,533 | 10,491,361 | 2,447,172 |
| 保険料 | 1,640,198 | 1,795,298 | △ 155,100 |
| 諸謝金 | 1,647,940 | 1,865,000 | △ 217,060 |
| 租税公課 | 1,159,846 | 2,493,866 | △ 1,334,020 |
| 支払負担金 | 114,000 | 114,000 | 0 |
| 委託費 | 17,291,085 | 22,986,551 | △ 5,695,466 |
| 雑費 | 198,169 | 170,913 | 27,256 |
| 管理費 | 70,474,566 | 79,101,934 | △ 8,627,368 |
| 役員報酬 | 1,404,725 | 1,546,570 | △ 141,845 |
| 給料手当 | 16,322,800 | 22,878,442 | △ 6,555,642 |
| 職員手当 | 20,050,955 | 21,831,223 | △ 1,780,268 |
| 臨時雇賃金 | 8,560,885 | 6,489,615 | 2,071,270 |
| 退職金共済掛金 | 1,220,000 | 1,240,000 | △ 20,000 |
| 法定福利費 | 8,330,367 | 8,109,169 | 221,198 |
| 福利厚生費 | 216,052 | 199,747 | 16,305 |
| 旅費交通費 | 36,554 | 19,507 | 17,047 |
| 会議費 | 6,106 | 3,485 | 2,621 |
| 通信運搬費 | 852,763 | 1,945,563 | △ 1,092,800 |

| | | | |
|-----------------|-------------|-------------|--------------|
| 減価償却費 | 482,213 | 969,259 | △ 487,046 |
| 減価償却費(リース) | 513,919 | 344,995 | 168,924 |
| 消耗器具備品費 | 43,890 | 0 | 43,890 |
| 消耗品費 | 884,418 | 742,172 | 142,246 |
| 修繕費 | 50,160 | 0 | 50,160 |
| 印刷製本費 | 33,483 | 25,271 | 8,212 |
| 光熱水料費 | 504,184 | 544,789 | △ 40,605 |
| 賃借料 | 6,064,352 | 6,124,549 | △ 60,197 |
| 保険料 | 39,972 | 39,972 | 0 |
| 諸謝金 | 394,800 | 395,300 | △ 500 |
| 租税公課 | 69,868 | 105,134 | △ 35,266 |
| 支払負担金 | 612,248 | 339,666 | 272,582 |
| 委託費 | 3,761,852 | 5,172,006 | △ 1,410,154 |
| 交際費 | 18,000 | 25,500 | △ 7,500 |
| 雑費 | 0 | 10,000 | △ 10,000 |
| 経常費用計 | 492,820,493 | 527,514,393 | △ 34,693,900 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | 8,815,111 | 12,710,016 | △ 3,894,905 |
| 評価損益等計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常増減額 | 8,815,111 | 12,710,016 | △ 3,894,905 |
| 2. 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | 8,815,111 | 12,710,016 | △ 3,894,905 |
| 一般正味財産期首残高 | 78,643,093 | 65,933,077 | 12,710,016 |
| 一般正味財産期末残高 | 87,458,204 | 78,643,093 | 8,815,111 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 300,000,000 | 300,000,000 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 300,000,000 | 300,000,000 | 0 |
| III 正味財産期末残高 | 387,458,204 | 378,643,093 | 8,815,111 |

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 会計基準

公益法人会計基準(平成21年10月16日内閣府公益認定等委員会制定)により作成している。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有有価証券について、原価基準を採用している。

(3) 固定資産の減価償却の方法

建物および建物附属設備 定額法による減価償却を実施している。

構築物 //

什器備品 //

ソフトウェア //

リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により実施している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

| 科目 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|--------|-------------|-------|-------|-------------|
| 基本財産 | | | | |
| 普通預金 | 273,000 | 0 | 0 | 273,000 |
| 投資有価証券 | 299,727,000 | 0 | 0 | 299,727,000 |
| 小計 | 300,000,000 | 0 | 0 | 300,000,000 |
| 特定資産 | | | | |
| 事業運営基金 | 16,776,620 | 0 | 0 | 16,776,620 |
| 小計 | 16,776,620 | 0 | 0 | 16,776,620 |
| 合計 | 316,776,620 | 0 | 0 | 316,776,620 |

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

| 科目 | 当期末残高 | (うち指定正味財産からの充当額) | (うち一般正味財産からの充当額) | (うち負債に対応する額) |
|--------|-------------|------------------|------------------|--------------|
| 基本財産 | | | | |
| 普通預金 | 273,000 | (273,000) | — | — |
| 投資有価証券 | 299,727,000 | (299,727,000) | — | — |
| 小計 | 300,000,000 | (300,000,000) | — | — |
| 特定資産 | | | | |
| 事業運営基金 | 16,776,620 | — | (16,776,620) | — |
| 小計 | 16,776,620 | — | (16,776,620) | — |
| 合計 | 316,776,620 | (300,000,000) | (16,776,620) | — |

4 担保に供している資産

該当無し。

5 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

| 物件 | 取得価額 | 減価償却累計額 | 当期末残高 |
|--------|------------|------------|------------|
| 構築物 | 1,500,000 | 1,499,999 | 1 |
| 什器備品 | 1,856,298 | 957,618 | 898,680 |
| 建物附属設備 | 5,565,000 | 3,394,650 | 2,170,350 |
| リース資産 | 19,906,560 | 6,202,872 | 13,703,688 |
| 電話加入権 | 445,536 | 0 | 445,536 |
| ソフトウェア | 1,558,980 | 337,779 | 1,221,201 |
| 合計 | 30,832,374 | 12,392,918 | 18,439,456 |

6 債権の金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

該当無し。

7 保証債務等の偶発債務

該当無し。

8 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

| 科目 | 帳簿価額 | 時価 | 評価損益 |
|-------------------|-------------|-------------|-----------|
| 第343回 大阪府公募公債 | 99,727,000 | 100,541,200 | 814,200 |
| 第135回 大阪府公募公債 | 100,000,000 | 99,949,700 | △ 50,300 |
| 平成30年度第3回 北海道公募公債 | 100,000,000 | 100,770,000 | 770,000 |
| 合計 | 299,727,000 | 301,260,900 | 1,533,900 |

9 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

| 補助金等の名称 | 交付者 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 | 貸借対照表の記載区分 |
|-----------|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 設立寄附金 | 調布市 | 300,000,000 | 0 | 0 | 300,000,000 | 指定正味財産 |
| 市補助金(高齢分) | 調布市 | - | 169,701,680 | 169,701,680 | - | |
| 合計 | | - | 169,701,680 | 169,701,680 | - | |

10 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当無し。

11 関連当事者との取引の内容

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

| | | |
|---------|-----------------|-----------------|
| 属性 | 当公益法人を支配するもの | |
| 法人の名称 | 調布市 | |
| 住所 | 調布市小島町2丁目35番地1 | |
| 事業内容 | 地方公共団体 | |
| 関係内容 | 役員の兼務等 | 2人(理事1人, 評議員1人) |
| 取引内容 | 補助金の受入, 委託業務の受託 | |
| 取引金額と科目 | | |
| | 受取地方公共団体補助金 | 169,701,680 |
| | 受託事業収益 | 163,901,466 |
| | 合計 | 333,603,146 |
| 期末残高 | | 0 |

12 重要な後発事象

該当無し。

13 その他

該当無し。

附属明細書

- 1 基本財産および特定資産の明細
財務諸表に対する注記に記載している。
- 2 引当金の明細
該当なし。

財産目録

令和2年3月31日現在

(単位:円)

| 科目 | 場所・物量等 | 使用目的等 | 金額 |
|---------|---------------------|---------------------------------------|-------------|
| (流動資産) | | | |
| 現金預金 | | | 117,350,812 |
| 普通預金 | | | 111,357,663 |
| みずほ銀行 | みずほ銀行調布支店 | 運転資金 | 97,525,465 |
| 三井住友銀行 | 三井住友銀行国領支店 | 運転資金 | 13,832,198 |
| 郵便貯金 | | | 5,705,622 |
| ゆうちょ銀行 | 調布くすのき郵便局 | 運転資金 | 5,705,622 |
| 小口現金 | | | 169,276 |
| 一般 | 第二事務所 | 運転資金 | 130,000 |
| 介護 | 入間町地域密着型認知症デイサービス | 運転資金 | 39,276 |
| 現金 | 第二事務所 | サービス利用分他3件 | 118,251 |
| 未収金 | | | 25,510,922 |
| | 東京都国民健康保険団体連合会(国保連) | 介護保険給付費他 | 17,412,491 |
| | 利用者 | 各事業サービス利用分 1638件 | 7,992,553 |
| | 調布市 | 軽度生活援助事業(見守り)委託料他1件 | 84,678 |
| | (株)ウィード | ほっとらいん広告掲載料 | 13,200 |
| | 吉祥寺病院 | 実習生受け入れ謝金 | 8,000 |
| 前払金 | 第二事務所 | 令和2年4月分の家賃 | 155,000 |
| 未収消費税等 | 武蔵府中税務署 | 消費税還付金 | 106,000 |
| 流動資産合計 | | | 143,122,734 |
| (固定資産) | | | |
| 基本財産 | | | 300,000,000 |
| 普通預金 | | | 273,000 |
| みずほ銀行 | みずほ銀行調布支店 | 運用益を法人の管理運営の財源に充てている | 273,000 |
| 投資有価証券 | 第343回大阪府公募公債他2件 | 運用益を法人の管理運営の財源に充てている | 299,727,000 |
| 特定資産 | | | 16,776,620 |
| 事業運営基金 | みずほ銀行調布支店 | 在宅福祉事業促進に必要な財源に充てている | 16,776,620 |
| その他固定資産 | | | 18,439,456 |
| 構築物 | テラス会議室 | 管理運営の用に供している | 1 |
| 什器備品 | エアコン他2台 | 管理運営の用に887,576円,公益目的事業の用に11,104円供している | 898,680 |
| 建物附属設備 | 第二事務所造作分 | 管理運営の用に供している | 2,170,350 |
| リース資産 | パソコン48台 | 管理運営に22%,公益目的事業に78%の用に供している | 13,703,688 |
| 電話加入権 | 回線5本分 | 公益目的事業及び管理運営の用に供している | 445,536 |
| ソフトウェア | 配食システム | 公益目的事業の用に供している | 1,221,201 |
| 固定資産合計 | | | 335,216,076 |
| 資産合計 | | | 478,338,810 |

(単位:円)

| 科目 | 場所・物量等 | 使用目的等 | 金額 |
|-----------|------------------|-----------------------------|-------------|
| (流動負債) | | | |
| 未払金 | | | 21,633,775 |
| | 職員 | 3月分給与及び賃金等 | 12,108,917 |
| | 日本年金機構 | 3月賞与,3月分給与社会保険料事業主 負担分 | 3,750,206 |
| | 協力会員 | 3月分協力会員活動費 139人 | 2,110,700 |
| | 取引業者 | 公益目的事業及び管理運営の用に供している未払い 40件 | 3,663,952 |
| 前受金 | | | 90,000 |
| | 協力会員 | 協力会員費 75人 | 90,000 |
| | | | |
| 預り金 | | | 4,199,031 |
| 社会保険料 | 職員 | 社会保険料 | 2,317,332 |
| 所得税 | 役職員 | 源泉所得税 | 885,899 |
| 住民税 | 職員 | 住民税 | 995,800 |
| 調布市利用料預り金 | 公益目的事業における調布市預り金 | 利用料の収納委託金 | 11,258 |
| 調布市返還金 | | | 51,242,854 |
| | | | |
| 短期リース債務 | | | 3,981,312 |
| 流動負債合計 | | | 81,158,230 |
| (固定負債) | | | |
| 長期リース債務 | | | 9,722,376 |
| 固定負債合計 | | | 9,722,376 |
| 負債合計 | | | 90,880,606 |
| 正味財産 | | | 387,458,204 |

監査報告書

令和2年4月24日

公益財団法人調布ゆうあい福祉公社
理事長 花角 美智子 様

公益財団法人調布ゆうあい福祉公社
監事 加瀬 亜里

監事 老川 多加子

私たち加瀬、老川両監事は、公益財団法人調布ゆうあい福祉公社定款第24条及び関連法令に基づき、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次の通りに報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

- (1) 業務監査につきましては、理事会等に出席し、運営状況を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について監査いたしました。
- (2) 会計監査について、会計帳簿及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて、計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録の適正性を確認いたしました。

2 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書につきましては、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。また、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する事実は認められません。
- (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録につきましては、一般に公正妥当と認められる公益法人会計基準並びに関係法令、定款及び会計規程等に従い、法人の財産及び収支の状況を正しく表示しているものと認めます。

収支計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

1. 概要

(単位:円)

| | 予算額 | 執行額 | 差異 | 備考 |
|----------|-------------|-------------|-------------|----|
| 収入 | 568,989,000 | 506,945,324 | 62,043,676 | |
| 支出 | 568,989,000 | 497,331,209 | 71,657,791 | |
| 収支差額 | 0 | 9,614,115 | △ 9,614,115 | |
| 前期繰越収支差額 | 56,331,701 | 56,331,701 | 0 | |
| 次期繰越収支差額 | 56,331,701 | 65,945,816 | △ 9,614,115 | |

2. 節科目集計

| 勘定科目 | | 予算額 | 執行額 | 差異 | 備考 |
|-------------------|--------------------|-------------|-------------|------------|----|
| 大 | 中 | | | | |
| I 事業活動収支の部 | | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | | |
| 1 | 基本財産運用収入 | 1,186,000 | 1,186,000 | 0 | |
| | 1 基本財産受取利息収入 | 1,186,000 | 1,186,000 | 0 | |
| 2 | 会費収入 | 379,000 | 540,000 | △ 161,000 | |
| | 1 賛助会員会費収入 | 379,000 | 540,000 | △ 161,000 | |
| 3 | 事業収入 | 359,675,000 | 326,645,078 | 33,029,922 | |
| | 1 有償福祉サービス事業収入 | 47,445,000 | 44,163,595 | 3,281,405 | |
| | 2 介護保険事業収入 | 105,278,000 | 97,886,225 | 7,391,775 | |
| | 3 地域包括支援センター事業収入 | 9,007,000 | 9,821,138 | △ 814,138 | |
| | 4 軽度生活援助事業収入 | 558,000 | 901,992 | △ 343,992 | |
| | 5 介護保険認定調査事業収入 | 171,000 | 199,360 | △ 28,360 | |
| | 6 障害者訪問介護事業収入 | 9,396,000 | 9,771,302 | △ 375,302 | |
| | 7 受託事業収入 | 187,820,000 | 163,901,466 | 23,918,534 | |
| 4 | 補助金等収入 | 197,026,000 | 169,701,680 | 27,324,320 | |
| | 1 地方公共団体補助金収入 | 197,026,000 | 169,701,680 | 27,324,320 | |
| 5 | 負担金収入 | 8,044,000 | 6,353,884 | 1,690,116 | |
| | 1 負担金収入 | 8,044,000 | 6,353,884 | 1,690,116 | |
| 6 | 寄附金収入 | 1,268,000 | 496,064 | 771,936 | |
| | 1 寄附金収入 | 1,268,000 | 496,064 | 771,936 | |
| 7 | 雑収入 | 1,411,000 | 2,022,618 | △ 611,618 | |
| | 1 雑収入 | 1,411,000 | 2,022,618 | △ 611,618 | |
| 事業活動収入計 | | 568,989,000 | 506,945,324 | 62,043,676 | |
| 2. 事業活動支出 | | | | | |
| 1 | 高齢者・障害者等支援事業 | 467,739,000 | 416,351,827 | 51,387,173 | |
| | 1 事業費人件費 | 92,928,000 | 86,215,972 | 6,712,028 | |
| | 2 有償福祉サービス事業費 | 62,025,000 | 54,899,785 | 7,125,215 | |
| | 3 生活支援コーディネート事業費 | 153,000 | 59,226 | 93,774 | |
| | 4 相談事業費 | 1,696,000 | 1,304,810 | 391,190 | |
| | 5 居宅介護支援事業費 | 20,574,000 | 18,819,923 | 1,754,077 | |
| | 6 地域包括支援センター受託事業費 | 50,161,000 | 45,340,971 | 4,820,029 | |
| | 7 見守りネットワーク受託事業費 | 2,740,000 | 2,740,000 | 0 | |
| | 8 訪問介護事業費 | 50,996,000 | 47,039,165 | 3,956,835 | |
| | 9 デイサービスぶちぼあん事業費 | 37,499,000 | 30,183,929 | 7,315,071 | |
| | 10 在宅サービスセンター受託事業費 | 134,524,000 | 116,375,975 | 18,148,025 | |
| | 11 市基準通所型サービス受託事業費 | 4,551,000 | 4,375,649 | 175,351 | |
| | 12 軽度生活援助事業費 | 558,000 | 558,000 | 0 | |
| | 13 障害者訪問介護事業費 | 9,334,000 | 8,438,422 | 895,578 | |
| 2 | 普及啓発・人材育成・調査研究事業 | 8,704,000 | 7,519,636 | 1,184,364 | |
| | 1 普及啓発事業費 | 5,340,000 | 4,481,283 | 858,717 | |
| | 2 人材育成事業費 | 3,309,000 | 2,983,353 | 325,647 | |

| 勘定科目 | | 予算額 | 執行額 | 差異 | 備考 |
|-------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|
| 大 | 中 | | | | |
| | 3 調査研究開発事業費 | 55,000 | 55,000 | 0 | |
| 3 | 管理費 | 88,560,000 | 69,478,434 | 19,081,566 | |
| | 1 管理費人件費 | 70,884,000 | 56,142,338 | 14,741,662 | |
| | 2 一般管理費 | 17,676,000 | 13,336,096 | 4,339,904 | |
| | 事業活動支出計 | 565,003,000 | 493,349,897 | 71,653,103 | |
| | 事業活動収支差額(A) | 3,986,000 | 13,595,427 | △ 9,609,427 | |
| II 投資活動収支の部 | | | | | |
| 1. 投資活動収入 | | | | | |
| | 投資活動収入計 | 0 | 0 | 0 | |
| 2. 投資活動支出 | | | | | |
| | 1 固定資産取得支出 | 3,986,000 | 3,981,312 | 4,688 | |
| | 投資活動支出計 | 3,986,000 | 3,981,312 | 4,688 | |
| | 投資活動収支差額(B) | △ 3,986,000 | △ 3,981,312 | △ 4,688 | |
| III 財務活動収支の部 | | | | | |
| 1. 財務活動収入 | | | | | |
| | 財務活動収入計 | 0 | 0 | 0 | |
| 2. 財務活動支出 | | | | | |
| | 財務活動支出計 | 0 | 0 | 0 | |
| | 財務活動収支差額(C) | 0 | 0 | 0 | |
| IV 予備費支出(D) | | | | | |
| V 当期収支差額(E) 《(A)+(B)+(C)-(D)》 | | | | | |
| | | 0 | 9,614,115 | △ 9,614,115 | |
| VI 前期繰越収支差額(F) | | | | | |
| | | 56,331,701 | 56,331,701 | 0 | |
| VII 次期繰越収支差額(E)+(F) | | | | | |
| | | 56,331,701 | 65,945,816 | △ 9,614,115 | |

収支計算書に対する注記

1 資金の範囲

資金の範囲には、現金、小口現金、普通預金、未収金、前払金、立替金、未払金、前受金、預り金を含めている
なお、前期末及び当期末残高は、下記1に記載するとおりである

2 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

| 科目 | 前期末残高 | 当期末残高 |
|---------------|-------------|-------------|
| 現金 | 57,480 | 118,251 |
| 小口現金 | 110,707 | 169,276 |
| 普通預金 | 101,259,028 | 117,063,285 |
| 未収金 | 28,934,272 | 25,510,922 |
| 前払金 | 155,000 | 155,000 |
| 立替金 | 26,250 | 106,000 |
| 合計 | 130,542,737 | 143,122,734 |
| 未払金 | 33,109,285 | 21,633,775 |
| 前受金 | 177,040 | 90,000 |
| 預り金(調布市預り金含む) | 39,942,800 | 55,453,143 |
| 点数預託預り金 | 981,911 | 0 |
| 合計 | 74,211,036 | 77,176,918 |
| 次期繰越収支差額 | 56,331,701 | 65,945,816 |

令和2年度公益財団法人調布ゆうあい福祉公社事業計画

公益財団法人調布ゆうあい福祉公社 理念

公社は市民相互の助け合いと自立支援のための質の高いサービスの提供を通じてあたたかい地域づくりを目指します

公社のビジョン

<キャッチフレーズ>

困ったときはゆうあいへ、困ってなくてもゆうあいへ
～元気な時からゆうあいとの絆でつながる「おたがいさま」の地域の輪～

1. ゆうあい型チームアプローチ（多職種協働）をさらに充実し、総合的な支援を推進します
2. 地域の福祉ニーズをとらえた新たな事業の創出や実践など先駆的な役割を果たします
3. 公社事業の実践から得られる知見をもとにさまざまな福祉施策への提言に努めます
4. 地域の福祉人材を育成・発掘します

このビジョンは、複雑化、多様化する地域での今日的な福祉的ニーズに対し、適切かつ迅速な対応をしていこうとする組織としての公社の姿勢と決意を、明示したものです。

1 令和元年度の振り返りと課題

公社では、住民参加型事業を中心に、居宅支援・訪問介護・ぶちぼあんの自主3事業、調布市からの受託事業（地域包括支援センター事業・調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業）、並びに公益法人としての使命を果たすための事業として、普及啓発事業、人材育成事業、調査研究開発事業の6事業を展開しています。

住民参加型事業では、事業の担い手となる協力会員の確保が難しく、特に食事サービス・ホームヘルプサービスについては、年度を通して事業展開の厳しい状況が続きました。

協力会員や登録ボランティアの新規確保については、ほぼ毎月、民生児童委員協議会や地域のサロン等の場に出向き、公社の活動等の紹介と併せ、定期的に募りましたが、いずれも期待した員数の参加者を集めるまでには至りませんでした。現に活動中

の協力会員も、高齢化等の要因で、固定化が散見している状況であることから、今後、対象とする方々の幅をより広げる等、協力会員確保の手法全般の見直しは、令和2年度の課題です。

自主事業（居宅支援、訪問介護、ぷちぼあん）では、職員の休業や、退職者の補充ができなかったといった事情から、目標値の達成には至らない状況です。

人員の補充・確保については、自主事業においても、年度を通して解消の難しい課題となりました。雇用情勢等に芳しい改善が見込めない今後の状況を鑑みると、公社全体の取組として、職員採用の方策も含め、既存職員のスキルアップや既存事業の内容見直し等の検証は必須で、令和2年度以降の課題です。

受託事業（地域包括支援センター事業、調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業）では、地域包括支援センター事業は概ね順調な事業展開で推移しましたが、調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業は、施設改修が大きくズレ込んだことから、目標値の達成には至らない状況です。

地域包括支援センター事業では、調布市の福祉圏域の改編に伴い、令和3年4月から公社が担当する事業エリアが、一部変更となります。令和2年度は、それを見据えた人員の確保と体制の整備が課題です。

調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業で実施する総合事業通所型市基準サービス（市基準）については、体制整備ができたことから、令和元年9月からの予定を前倒しし、令和元年7月から開催日を週3回に増やし事業の拡大を図りました。

公益法人としての先駆的な役割を果たすための事業では、普及啓発事業で、家族介護者支援事業のケアラー支援マップの更新に併せ、14団体のケアラーを支えるグループ等に呼び掛けを行い、意見交換会を開催しました。ケアラー支援については、調布市の重要施策の一つでもあることから、公社においても、今後、取組みの強化推進を検討します。

人材育成事業では、協力会員研修・ゆうあい福祉セミナー・介護職カフェの3事業すべてで順調に推移し、それぞれ目標値の達成が見込めますが、公社内部で講師となる人材を育成し、増やすこと、また、さらに研修参加者を増やす工夫等については、今後も検討していくことが求められます。

調査研究開発事業では、デイサービスの取組みをベースに、理学療法士等の専門職と連携して介護予防・フレイル予防調査を開始し、継続的なデータ収集とアンケート調査を行い、「ちょうふ高齢者応援大会」で分析結果の公表を行いました。今後、継続してデータ収集を行い、効果的な比較検証等の方策について検討します。令和元年度は、前述のとおり公社全体で職員の欠員等の状況が続き、新規の事業展開が難しい年度となりました。これについては、令和2年度の課題です。

令和元年度は、公社においても「働き方改革」への取組みを、本格的に開始しました。本改革では、長時間労働の是正を目的とした「時間外労働の上限規制」と「年次有給休暇取得」、労働者の待遇差の是正を目的とした「同一労働同一賃金」が、法人に義務化されました。

これを受け、前段の長時間労働の是正については、年度当初から公社全職員の各月の時間外の実績と、休暇の取得状況を確認し、例月の職員会議や係ごとのミーティングの際に、注意喚起を行いました。その結果、公社全体の時間外労働時間数は、平成

30年度と比較し、およそ3割縮減しました。年次有給休暇の取得については、法令の基準を概ね達成可能な状況です。

同一労働同一賃金については、厚生労働省が主催する「職務分析・職務評価普及事業」を活用し、令和元年9月から毎月1回、職務評価コンサルタントの派遣を受け、公社における職務評価の現況分析と課題の洗い出しを行いました。令和2年度以降、それを基に、職能要件や人事評価制度の整理・構築に取り組みます。

人事評価制度については、調布市の制度を参考に、対象を管理職に限り、令和元年度から試験的に導入を開始しました。令和2年度はこれを検証し、係長職以下の正規職員の人事評価制度導入時に併せ、制度化を目指します。

また、組織の活性化、並びに職員の意欲喚起を目的として、厚生労働省が主催する「セルフキャリアドック普及拡大加速化事業」を活用し、令和元年11月に正規職員21人を対象に、キャリアコンサルティングによる個別面談を実施しました。面談を受けた職員からは、自己のキャリア形成や社内のコミュニケーション等について、改めて見つめ直す好機となった等の感想があり、全員が満足感を示す結果となりました。本事業で、面談を実施したキャリアコンサルティングから提出されたレポートは、面談を受けた全職員にフィードバックを行いました。

2 運営方針

令和2年度は、引き続き第2次中期計画（6か年）の5つの重点プロジェクトと、6つの基本目標に係る各事業の取組内容の着実な推進に努めるとともに、計画の中間年となることから、前期（平成30年度～令和2年度）の締め括りの年度として、改めて計画全般の進捗状況や各事業の有効性等について検証を行い、後期（令和3年度～令和5年度）に向け、各事業の取組内容や方向性を見直しを行います。

(1) 法人運営

ア 健全な公社経営

平成31年4月に施行された「働き方改革関連法」については、平成30年度から順次対応しておりますが、令和2年度は、同一労働同一賃金に関する具体的な課題解消を進めて参ります。

介護・福祉分野での慢性的な人材不足は、公社においても例外ではなく、訪問介護事業を初め複数の事業に影響が及んでいます。事業継続の観点からも、人材の確保・育成を組織の最重要課題と位置付け、職場環境の改善や魅力ある職場づくり、また、公社内部に限らず外部機関を活用した研修受講の奨励等に、取組んで参ります。

自主事業（居宅支援、訪問介護、ぷちぽあん）の各介護保険事業では、近年、着実に収益を確保していますが、これを継続し、安定化させることを目指して参ります。

外部から依頼されることの多い専門研修の講師や、実習生の受入れについては、公社の社会的使命を果たすだけでなく、自主財源の確保にもつながることから、引き続き意欲的に取組んで参ります。

イ 運営体制の強化・整備

かねてよりの課題であった、ガバナンスの強化・充実を目的として、法人総務を令和2年6月に本部事務所へ移転する予定です。法人の管理部門が本部に移ることで、法人運営のより一層の円滑化が見込めます。これに伴い、現在、本部事務所にある地域包括支援センターは、現法人総務事務所へ移転する予定です。

令和元年度、調布市が実施した公募型プロポーザル方式による地域包括支援センター運營業務委託事業者選定の結果、公社は、令和3年4月から国領地区を中心とした新たなエリアを担当することが決定しました。これに伴い、主たる事務所の他に、新たな相談窓口(拠点)の設置が義務付けられましたので、令和2年度は、これに対する遺漏のない準備を進めて参ります。

ウ 施設改修の計画・準備

浴室の改修については、調布市との協議が整いましたので、令和2年度中の施工完了に向け、現在、具体的な準備を進めているところです。

(2) 事業運営

ア 介護予防の取組み

高齢期のフレイル状態の維持・回復は、健康長寿のカギと言われています。公社では、総合事業通所型市基準サービス(市基準)を、令和元年度から月曜日を追加し、水曜日・金曜日と含め、週3回開催しています。利用者数は増加しましたが、それ以上に地域での需要が見込める状況で、施設に制約はありますが、引き続き、調布市と連携し、事業展開の拡張を検討して参ります。

介護予防については他にも、社会と繋がりを持つ事、また、そうした活動を行う事が、大変に有効であると、大きく注目をされています。公社の協力会員活動は、その好事例であり、引き続き、広く市民にその活動を紹介するとともに、参加への呼び掛けを継続して参ります。

イ 地域の福祉人材の発掘・育成に向けた研修の実施

公社の抱える協力会員は、公社の基盤となる住民参加型事業を支える、まさに地域の福祉人材です。公社では、この方々を一人でも多く増やすために、職員が地域に出向き、協力会員募集の説明会開催などの取組みを、引き続き積極的に行って参ります。

協力会員に向けた研修では、実務的な食品衛生や安全運転に関する講習の他、医療や傾聴に関する研修等も開催し、事業の担い手として円滑に活動できるよう配慮して参ります。

また、フォーマル・インフォーマルの多様な福祉サービスを実践する中で培った、公社職員の知見を、様々な研修の場で講師として還元し、調布市の福祉人材の資質向上に寄与して参ります。

ウ 認知症当事者と家族介護者支援の拡充

調布市から受託した、認知症サポーター養成講座事業については、各地域包括

支援センターと連携し、引き続き新たなサポーターの養成に努めて参ります。養成後のサポーターに向けたフォローアップとしては、活躍の場リストの更新や見守り訓練等を企画して参ります。

職員が事業提案した「認知症当事者の模擬演者養成」については、令和2年3月に計画した見守り訓練の中で、実施する準備を進めていましたが、新型コロナウイルス対策で事業が中止となったことから令和2年度に持ち越して参ります。

家族介護者支援事業では、「だれでもカフェこくりょう」の開催を継続するとともに、地域で孤立しがちなケアラーを支えるために、ケアラーのための学習会を開催して参ります。男性のケアラー支援では、集い場としての「男性ケアラーのつどい」開催の支援を継続して参ります。併せて、認知症当事者の行動・心理症状（BPSD）の改善につながるとされる「日本版BPSDケアプログラム」についても、実践を重ね、そのデータを元に、市と協議をして参ります。

エ 医療介護連携の推進

公社が、地域で実践する事業で得た様々な知見を還元するために、市内福祉団体の評議員や職能団体、行政の会議に、委員として職員を派遣して参ります。また、調布市医師会や介護支援専門員調布連絡協議会など、市内8団体で共催する「ちょうふ高齢者応援大会」にも、継続して参画し、多職種協働による医療介護連携の構築に寄与して参ります。

オ 地域共生社会の推進

公社は、定款でその目的を「調布市における高齢者等の在宅生活の充実を図るため、地域における福祉意識の増進に努め、福祉ニーズに即した在宅福祉サービスの供給を行い、もって市民福祉及び地域福祉の増進に寄与すること」と定めた団体で、設立以来、高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、フォーマル・インフォーマルの福祉サービスを提供、展開しています。

なかでも住民参加型事業については、市民の参加と協働によるボランティア精神に富んだ活動を継続的に展開し、地域共生社会の具現化に寄与して参りました。本事業の継続・発展は、公社の掲げる理念「市民相互の助け合いと、自立支援のための質の高いサービスの提供を通じて、あたたかい地域づくりを目指す」に通じるものとして、「困ったときはゆうあいへ、困ってなくてもゆうあいへ～元気な時からゆうあいとの絆でつながる『おたがいさま』の地域の輪～」をキャッチフレーズに掲げ、今後も最優先に位置付け、取り組んで参ります。

平成29年度に開始した「こくりょう子ども食堂わいわい」については、引き続き支援を継続して参ります。

令和元年度は、地域包括支援センター業務の公募型プロポーザル方式による選定が実施されるとともに、市内全圏域に地域福祉コーディネーターが配置される等、調布市の福祉圏域を意識した施策展開が鮮明になった年度でした。

それを踏まえ、公社では、地域共生社会の実現、多世代共生型社会の構築を全市的に広げるべく、調布市と協議をしながら事業展開を図って参ります。

3 重点プロジェクト

第2次中期計画では、公社全事業を6つの基本目標ごとに体系化し、特にビジョンの具現化に向けた取り組みについては、重点プロジェクトとして位置付けています。

(1) ケースカンファレンス（事例検討会）の推進

各係（地域包括支援センター係，居宅支援係，住民参加推進係）の相談職の資質向上や自己研鑽を目的として，ケースカンファレンス（事例検討会）の活性化を推進します。

ケースカンファレンスを通し，多職種の専門職が交流，連携することで，ビジョンに掲げたゆうあい型チームアプローチの実践につなげます。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|---------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | ケースカンファレンスの実施 | 月1回 公開研修1回 |
| | ゆうあいチャレンジプログラム | 1回 外部連携実施 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●ケースカンファレンス（事例検討会）は，外部の事業所にも公開して相談援助の資質向上を図ります。 ●ゆうあいチャレンジプログラムは，専門職間の垣根を超えた協力体制を構築するため外部連携も検討のうえ実施します。 | |

(2) だれでもカフェ（認知症カフェ）の充実

地域での認知症への理解を広めると共に，交流の場として，認知症当事者とその家族，地域住民等誰でも参加のできる「だれでもカフェ」を，調布市国領高齢者在宅サービスセンターとデイサービスぷちぼあんで開催します。

また，引き続き若年性認知症当事者とその家族の方々が，お互いに語り合える場の創出に寄与します。

これにより，ビジョンに掲げた地域の福祉ニーズをとらえた先駆的な役割を果たします。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|---|--------------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | だれでもカフェこくりょう | 月1回 若年性認知症当事者含む |
| | だれでもカフェぷちぼあん | 不定期開催 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●地域に認知症への理解が深まるよう，認知症の方やその家族だけでなく，地域の多くの方々が参加できるよう，さまざまな講座やイベント等を開催します。 | |

| | |
|--|---|
| | <p>●医療機関等と連携し、認知症の方の中でもマイノリティの若年性認知症当事者やその家族に向けて、だれでもカフェへの参加を呼びかけます。また、若年性認知症の方やその家族のニーズを把握し、語り合える場の創出に寄与します。</p> |
|--|---|

(3) 先駆的な家族介護者向け支援の創出

ア 家族介護者向け介護技術講座

公社の専門職が、おむつのあて方や排泄後の処理方法等、自宅で家族を介護する際の注意点やコツについて、実演を交えながらアドバイスします。

イ ホームヘルパー出張派遣

病院退院時等介護保険のサービスを受ける前に、急に家族の介護をすることになった方等への支援を想定した事業で、ホームヘルパー等介護職が出張（出前）し、介護のノウハウや注意点等を伝授するとともに、心配事等の相談を受けます。これにより、ビジョンに掲げた地域の福祉ニーズをとらえた先駆的な役割を果たします。

| | 項 目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|--|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 家族介護者向け介護技術講座 | ① 家族介護者向け介護技術講座 2回 ② 家族介護者向け出張介護技術講座 随時 |
| | ホームヘルパー出張派遣 | 令和元年度に事業化。年6件。 |
| 目標達成に向けた方針 | <p>●家族介護者向け介護技術講座は、介護者が参加できるように、だれでもカフェの開催に合わせて開催します。出張介護技術講座については、認知症高齢者等の介護者を支える市内のグループ等と連携し、必要に応じて開催します。</p> <p>●ホームヘルパー出張派遣については、令和元年度に事業化し、検証を行った結果、退院時等介護保険制度では十分な支援が行き渡らない期間に、家族介護者等からのニーズがあり、事業の必要性が認められたことから、規模の適正化を図りながら継続して実施します。また、ケアラー支援を目的とした一時見守りサービスについて検証します。</p> | |

(4) 調査研究開発の推進

調査研究開発を推進し、福祉施策への提言等を目指します。

ア 職員による事業提案

新たな事業展開や既存事業の見直し、効率化を図るために、全職員から事業提案を募ります。

イ 実証研究調査

重点的な目標に掲げている介護予防・フレイル予防については、総合事業通所型市基準サービス（市基準）を積極的に展開するなかで、引き続きデータの集積

を行い、効果的かつ有効な調査・検証の方法を検証します。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|---|----------------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 事業提案 | 実効性の可否を検討 |
| | 介護予防、フレイル予防調査 (実証研究調査) | データの集積・調査内容と方法について検討 |
| | ホームヘルパー出張派遣(実証研究調査)(再掲) | 適正規模の検証 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、アンケート調査(内部調査)を活用すると共に、モデル事業の実証・調査、職員による事業提案等、さまざまな手法を用いて、調査研究に取り組みます。 ●既存の制度では救えない福祉的サービスを必要とする方々に焦点を当て、効果的で効率的な福祉的施策が提言できるように努めます。 ●様々なモデル事業を実践、検証し、その効果を広く地域に還元します。 | |

(5) 福祉人材の育成・発掘に向けた研修の充実

地域の介護専門職等にも開放し、お互いの介護技術を向上させる勉強会として開催する「介護職カフェ」並びに、主に地域の福祉専門職等を対象としたスキルアップ研修については、講座等の内容の充実を図ります。また、アンケート調査等に寄せられた要望を基に、協力会員やボランティアの方々を対象とした研修や勉強会の充実を図ります。

組織の将来を担う職員の育成は、喫緊の課題です。公社が健全な事業運営を展開していくためにも、十分なスキルを備え、公社の理念に沿った業務の遂行ができる職員の育成が不可欠です。それを踏まえた専門研修や理念研修、また一般的な職員研修の充実、実施に努めます。

これにより、ビジョンに掲げた地域の福祉人材の育成・発掘につなげます。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--|-----------------|--|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 第2次中期計画 目標・成果指標 | 各種研修の実施 | ①協力会員、登録ボランティア等への研修の充実 ②公社運営に携わるプロパー職員への研修の充実 |
| | 介護職カフェ(介護技術勉強会) | 4回以上 |
| | 福祉専門職スキルアップ研修 | 2回以上 |

| | |
|------------|--|
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●介護職カフェ（介護技術勉強会）については、年4回以上実施します。実技内容の充実を図るとともに、実技以外の講座をあわせて実施します。また、地域の専門職向けにスキルアップ研修を実施します。 ●職員、協力会員、登録ボランティア等、ゆうあい型チームアプローチを実践するメンバーそれぞれのスキルアップに向けて各種研修の充実を図ります。また、他機関とともに研修を共同開催し、ゆうあい型チームアプローチを活用した多職種連携の方法を共有します。 |
|------------|--|

4 実施事業

(1) 住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充

ア 有償在宅福祉サービス事業

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、会員制・有償性・住民参加型（住民が担い手）の仕組みにより、お互いさま・助け合いの精神を具体化し「支え合いの地域づくり」を推進します。また、さまざまな地域課題を住民主体の取組により解決できるよう、ソーシャルワーカーが住民の方々の相談に応じ、後方支援（地域コーディネート）を行います。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|---|--------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 利用会員数（世帯） | 300世帯 |
| | 協力会員数 | 310人 |
| | 協力会員説明会（定期・随時） | 35回以上 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●利用会員の生活をホームヘルプサービス、食事サービスの提供を通じて支援します。 ●協力会員が円滑に活動できるように基礎研修やフォローアップ研修等を開催します。また、ソーシャルワーカーと情報を共有し安心して活動できるようにサポートします。 ●一人でも多くの方が、協力会員活動に興味を持っていただくため、地域での開催を行います。説明会には協力会員も参加して、住民参加型助け合い活動の具体的な内容の他、魅力ややりがいを伝えます。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|------------|------|-------------------------------|
| ホームヘルプサービス | 通年 | 協力会員が利用会員への日常生活に必要な支援（家事・外出等） |

| | | |
|--------|-----|---|
| 食事サービス | 通年 | 協力会員が利用会員への昼食・夕食の調理及びお届け，公社デイサービスへの昼食提供 |
| 会員交流事業 | 年1回 | 音楽会や会食等を通じた会員相互の交流 |
| 会員慶弔事業 | 随時 | 利用会員の誕生日にミニブーケを贈呈等 |

イ 生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」

ひとり暮らし高齢者等の「ちょっとした困りごと」を「住民参加型」の仕組みにより支援します。近所づきあいが希薄になっている昨今，地域住民とのコミュニケーションのきっかけづくり，孤立防止，地域の見守り機能の充実を図ります。

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|---|--------------|
| | 利用件数 | 140件 |
| 登録ボランティア数 | 110人 | |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●生活支援コーディネート事業の周知，広報を出張説明会や市報，ホームページ等で積極的に行います。 ●登録ボランティアは協力会員説明会時に合わせて，事業説明を行います。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|------------------------|------|---|
| 生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」 | 通年 | ちょっとした困りごと（30分程度でできる電球交換や荷物の上げ下ろし等）への支援 |

ウ 在宅福祉サービスに関する相談事業

総合相談の窓口として，公社の持つ情報やネットワークを駆使し，高齢者，障害者，そのご家族等の相談に応じ，地域の機関と連携しながら問題解決に向け対応します。また，さまざまな地域課題を住民主体の取組により解決できるよう，ソーシャルワーカーが住民の方々の相談に応じ，後方支援（地域コーディネート）を行います。

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|------------------------------------|----------------------|--------------|
| | 受付窓口（電話，来所，訪問等）対応の充実 | 受付窓口担当の配置 |
| 休日，夜間の電話相談の受付体制（地域包括支援センター，居宅介護支援） | 営業時間外の専門職による受付体制 | |

| | |
|------------|--|
| 目標達成に向けた方針 | ●相談面接技術を向上させます。専門職の相談面接技術の向上は、常に求められています。より適正な相談対応ができるように社内研修の実施や外部研修の受講を積極的に行います。 |
|------------|--|

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|------------------|------|---------------------------|
| 在宅福祉サービスに関する生活相談 | 随時 | ソーシャルワーカー，看護師による相談 |
| 医師による健康相談 | 年12回 | 医師による専門相談 (内科・精神科，各6回) |
| 弁護士による法律相談 | 年6回 | 弁護士による専門相談 |
| 福祉用具等の相談，貸出，紹介 | 随時 | 福祉用具・介護用品等の相談，紹介等 |

(2) 認知症施策の推進－認知症当事者とその家族への支援－

ア 認知症サポーター養成講座事業

認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを養成し，認知症になっても安心して暮らせるまちを目指します。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|--------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 認知症サポーター数(年度) | 1,000人以上 |
| | 認知症サポーターフォローアップ研修 | 2回 |
| 目標達成に向けた方針 | ●認知症サポーターを市内に広げ，普及啓発を進めていきます。継続的に開催されている，地域団体，企業，学校については，新しく入った方向けに開催していきます。学校や企業等未開催の団体については地域包括支援センターと連携を図りながら呼びかけを行います。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|-------------------|------|---|
| 認知症サポーター養成講座 | 随時 | 地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施(年6回以上)，キャラバンメイトの調整・派遣 |
| 認知症サポーターフォローアップ研修 | 年2回 | 講座の復習，認知症当事者体験や地域見守り訓練の実施 |
| 認知症サポーターの活躍の場リスト | 随時 | 認知症サポーターになったあとの地域・施設等での活躍の場リストを配布(年1回更新) |

イ 家族介護者支援事業

安心できる居場所や相談場所の提供（だれでもカフェ），家族介護者の集いの場や支援グループ等の資源の情報提供（認知症高齢者等を介護するケアラー（介護者）支援マップ），在宅介護において有効な介護技術の講習の実施（家族介護者向け介護技術講座），家族介護者向けの自宅での介護に役立つ学習会の実施，これらを充実することで，家族介護者を支援します。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|---|-----------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | だれでもカフェ | 220人 |
| | 認知症高齢者等を介護するケアラー（介護者）支援マップ | 更新・発行 |
| | 家族介護者向け介護技術講座 | 15人（出張介護技術講座含む） |
| 目標達成に向けた方針 | <p>●だれでもカフェの存在を地域の家族介護者へ周知し，必要な情報提供に努めます。月1回定期的に開催し，認知症当事者・家族介護者の精神的な負担感・孤立感の解消に向けて居場所を提供します。また，市内の「認知症高齢者等を介護するケアラー（介護者）支援マップ」を年1回最新情報に更新します。家族介護者のニーズを把握し，家族介護者向けの介護技術講座を開催します。</p> | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 | |
|----------------|-----------------|--|---|
| だれでもカフェ | 年12回 | 認知症カフェの開催（だれでもカフェこくりょう：毎月，だれでもカフェぷちぼあん：不定期） 若年性認知症当事者・家族会等の実施 | |
| ケアラー（介護者）支援マップ | 年1回 | 「調布市認知症高齢者等を介護するケアラー（介護者）支援マップ」の改訂 | |
| 家族介護者向け介護技術講座 | 家族介護者向け介護技術講座 | 年2回 | 家族介護者を対象にした介護技術講座の実施 |
| | 家族介護者向け出張介護技術講座 | 随時 | 介護を支えるグループ等へ「出張介護技術講座」の実施 |
| | ホームヘルパー出張派遣 | 年6件 | 介護保険申請中または介護保険要介護認定を受けている方を対象に2回を限度に無料で公社のヘルパーを派遣 |

(3) フォーマルサービスの充実

ア 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業

通所介護サービスを通じて、利用者の自立支援と家族への介護者支援を目的とし、元気な高齢者から重度の要介護者まで幅広く支援します。

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|--------------|
| | | 延べ利用者数 |
| | 延べボランティア数 | 840人 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ● 介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」という。）通所型市基準サービス（市基準）の広報活動を積極的に行い、利用者の増加に合わせ開所日を増やします。 ● 機能訓練プログラムの実施結果に基づいた運動方法の実践を行い、身体機能の客観的改善等を評価し、フレイル予防や介護度の悪化予防に取り組みます。 ● 事業費の抑制と効率的な運営体制の構築に向けて、委託送迎の一部を自主送迎に変更します。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|------------------|-------------------|--|
| 通所介護事業 | 月曜日～土曜日 (祝日含む) | 介護保険要介護認定者 |
| 総合事業（通所型市基準サービス） | 月曜日～土曜日 (祝日含む) | 介護保険要支援認定者および総合事業対象者 |
| 運営推進会議 | 年2回 | 利用者の家族や地域住民の代表者等に、提供しているサービス内容を明らかにすることでサービスの質を確保し、地域との連携を図ることを目的に開催 |
| 家族会 | 年2回 | 家族介護者の懇談会を実施。介護情報の提供、介護技術の習得の場を提供する |
| ボランティアの受入 | 随時 | さまざまな活動や行事に個人・市民団体・学校等がボランティアとして参加することを受け入れる |
| ボランティア交流会 | 年2回 | ボランティア同士の横のつながりを作る。活動に関する意見や感想を知り、ボランティア活動の推進と地域交流を図る |

イ 調布市地域包括支援センターゆうあい事業

高齢者と家族の総合相談窓口として、行政や介護保険事業者、医療機関等と連携しながら、地域の高齢者等の包括的な支援を行います。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|--------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 介護予防関連事業参加者数 (出張説明会, 介護教室) | 140人 |
| | 地域ケア会議参加者延べ人数 | 90人 |
| | みまもっとPR活動件数 | 300件 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●介護予防関連事業については、新たな集いの場の開拓と共に、介護予防について興味・関心を引くテーマを考案し、意識を高め、参加者を増やします。 ●地域ケア会議では、地域課題について関係者と共に継続的に取り組みます。 ●みまもっとPR活動については、既存のPR先の他、新規のPR先を開拓し、ポスター掲示場所も増やすことで、新しいネットワークの構築を図ります。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|----------|-------|--|
| 総合相談 | 随時 | 高齢者や家族に対する相談。介護予防をはじめ、様々なサービスの利用に関する相談。虐待の発見と防止。健康や福祉, 医療, 生活に関する相談等 |
| 地域ネットワーク | 年3回 | 地域ケア会議の開催 |
| | 年5回以上 | 広報協力員研修, 連絡調整会 |
| | 年1回以上 | 広報協力員PR活動 |
| | 年1回 | 民生委員と広報協力員の連絡会 |
| | 随時 | 地域への認知症サポーター養成講座の開催 |
| | 随時 | 認知症総合支援事業 |
| 介護予防 | 年1回 | 介護教室の開催 |
| | 随時 | 家族介護者の支援 |
| 権利擁護 | 随時 | 預貯金等の財産管理, 様々な契約等, 適切に判断できない方のために成年後見制度や地域権利擁護事業等の紹介, 利用手続きの案内。高齢者虐待の早期発見と防止に関する業務 |

| | | |
|-------------------|----|---|
| ケアマネジメント支援 | 随時 | 介護支援専門員への支援 |
| 介護予防マネジメント | 随時 | 介護予防ケアプランの作成 総合事業対象者への支援 |
| 見守りネットワーク事業 | 随時 | 地域住民による見守り，働きかけ |
| 包括的・継続的ケアマネジメント支援 | 随時 | 高齢の方々が，住み慣れた地域で自立して生活するために必要な援助，支援を行うために民生委員やケアマネジャー等の関係機関と連絡調整 |
| 一般施策判定業務 | 随時 | 市の一般施策の判定業務 |
| 出張説明会 | 随時 | 地域住民への普及啓発 |
| 介護保険要介護認定調査 | 随時 | 自宅又は入所施設等を訪問し，全国共通の基準により，心身の状態を調査 |

ウ 軽度生活援助事業

認知症の方で日常生活上の援助が必要な方に，見守りやその他必要に応じた援助を行います。

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|--------------|
| | 延べ利用時間数 | 206時間 |
| 延べ利用者数 | 36人 | |
| 目標達成に向けた方針 | ●事業実施体制を維持します。認知症の方とその家族や関係機関より要望があった際に，サービスを提供できる体制を整備，維持します。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|----------|------|------------|
| 軽度生活援助事業 | 随時 | 認知症高齢者の見守り |

(4) 介護保険事業（自主事業）による自立支援の推進

ア 訪問介護事業，障害者訪問介護事業

ケアプランに基づき，介護を必要とする高齢者，障害者の自宅を訪問し，身の回りの支援を行います。

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|-------------------------|---------|--------------|
| | 延べ利用時間数 | 15,100時間 |
| 介護職カフェ（介護技術勉強会）開催回数（再掲） | 4回以上 | |

| | |
|------------|---|
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●事業所規模に注視し，安定した運営を目指します。収支状況を把握・分析し，効果的，効率的に事業を実施します。 ●法令を遵守し，利用者に寄り添ったサービスを実施します。利用者の希望する在宅生活の実現に向け，サービスの質・技術の向上を目指し，定期的に会議・研修を実施します。 ●働きやすい職場環境を維持し，新たな雇用形態を創出，介護職員の増員を図ります。明るい雰囲気づくりや個々の希望に沿った働き方の実現に努めます。また，講師派遣を通じて事業所の認知を図るとともに，折込広告等の媒体を効果的に利用して募集を行います。 |
|------------|---|

| 事業名 | 実施予定 | 対象 |
|---------------------|-------|-----------------------|
| 訪問介護事業 | 随時 | 介護保険要介護認定者 |
| 総合事業(訪問型サービス) | 随時 | 介護保険要支援認定者および事業対象者 |
| 障害者訪問介護事業 | 随時 | 障害者総合支援居宅介護，重度訪問介護該当者 |
| 定期研修 | 随時 | 訪問介護事業所職員 |
| 介護職カフェ（介護技術勉強会）（再掲） | 年4回以上 | 市内サービス提供事業者 |

イ 居宅介護支援事業，介護保険要介護認定調査事業

利用者の「望む暮らし」が実現できるように，適切なアセスメントを経て，ケアプランを作成します。特定事業所加算の取得ができるよう計画的に人材育成を行います。また，介護保険法による要介護認定調査を行います。

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|--------------|
| | ケアプラン作成数 | 1,490件 |
| 福祉専門職スキルアップ研修（再掲） | 2回以上 | |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●法令を遵守し，利用者一人ひとりに寄り添ったケアプランの作成に努めます。 ●特定事業所加算取得のため，計画的に主任ケアマネジャー及びケアマネジャーの人材育成に努めます。 ●適正な要介護認定の判定をする為に，一次判定として申請者の自宅を訪ね，厚生労働省の定めた要介護認定調査票を基に，適切に調査を行います。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 対象 |
|----------------------|-------|---------------------|
| 居宅介護支援 | 随時 | 介護保険要介護認定者 |
| 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント | 随時 | 介護保険要支援認定者及び総合事業対象者 |
| 介護保険要介護認定調査 | 随時 | 介護保険申請者 |
| 福祉専門職スキルアップ研修(再掲) | 年2回以上 | 市内サービス提供事業者 |

ウ デイサービスぷちぼあん事業

認知症になっても地域で生活が続けられるよう、通所介護施設として送迎、食事、入浴、趣味及び生きがい活動のサービスを提供します。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|----------------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 延べ利用者数 | 2,670人 (稼働率86.5%) |
| | 地域開放支援事業 | 23回 |
| | 家族会開催回数 | 2回 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●通所介護事業所では受入ができない認知症利用者に対する専門的認知症ケアを実践します。 ●家族介護者支援を継続します。 ●地域に開かれた施設を目指します。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|--------------|-------------------|--|
| 認知症対応型通所介護事業 | 月曜日～金曜日 (祝日含む) | 認知症疾患の介護保険要支援・要介護認定者への支援 |
| 運営推進会議 | 年2回 | 利用者の家族や地域住民の代表者等に、提供しているサービス内容を明らかにすることでサービスの質を確保し、地域との連携を図ることを目的に開催 |
| ぷちぼあん事業運営協議会 | 年2回 | 地域住民が参加するぷちぼあん運営協議会が事業運営のサポートを行う |
| 家族会 | 年2回 | 家族介護者の懇談会を実施。介護情報の提供、介護技術の習得の場を提供する |

| | | |
|-----------|----|--|
| ボランティアの受入 | 随時 | さまざまな活動や行事に個人・市民団体・学校等がボランティアとして参加することを受入る |
| 地域開放支援事業 | 随時 | 地域住民に開かれた施設づくり。ボランティアの受入・地域交流事業 |

(5) 公益法人として先駆的な役割を果たすための事業の推進

ア 普及啓発事業

住民相互の支え合いによるあたたかい地域づくりを目指し、さまざまな手法で福祉に関する普及啓発に努めます。また、公社の行う住民参加型事業、多種の介護保険事業等で得られる情報を活かし、普及啓発事業を企画します。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|---------------------------------|--------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 福祉講演会の参加者率 | 会場定員90%以上 |
| | 協力会員・登録ボランティア説明会 延べ参加者数 | 60人 |
| | 出張説明会 | 12回 |
| 目標達成に向けた方針 | ●地域福祉センター等に出向き協力会員募集の説明会を開催します。 | |

| 事業名 | | 実施予定 | 事業内容 |
|------------------|---------------------|-----------------|--|
| 福祉講演会 | | 年1回 | 福祉・医療・保健等に関する情報提供と普及啓発 |
| 広報 | 機関紙 「ゆうあいほっとらいん」 | 2,500部 年6回 | 主に会員・利用者に向けた情報提供 |
| | 広報紙「ゆうあい」 | 123,000部 年2回 | 広く市民に向けた普及啓発・情報提供（市内ポスティング） |
| | ホームページ | 随時 | ホームページによる情報提供 |
| 出張説明会 | | 12回 | 協力会員説明会や地域の催しに出向き、さまざまな方法で、広く市民に向けた普及啓発・情報提供 |
| 協力会員・登録ボランティア説明会 | | 年10回以上 | 協力会員や登録ボランティア(ちょこっとさん)の募集 |

| | | | |
|--------------------|-------------------|-------------|---|
| 生きがい介護予防講座 | 男性のための料理講座 | 年1コース 5回 | 中高年者に社会参加・交流の機会を提供し、生きがいの創出，コミュニティづくり，介護予防につなげる |
| | フォークダンス講座 | 年1コース 4回 | |
| 介護予防社会参加事業 | | 随時 | 講座参加者の自主グループ支援 |
| 調布市食事サービス連絡会 | | 年1回 | 市内の食事(配食)サービス事業者・団体とのネットワーク構築，情報交換 |
| 家族介護者支援事業（再掲） | だれでもカフェ | 年12回 | 認知症カフェの開催(だれでもカフェこくりょう：毎月，だれでもカフェぷちぼあん：不定期)。若年性認知症当事者・家族会等の実施 |
| | ケアラー（介護者）支援マップ | 年1回 | 「調布市認知症高齢者等を介護するケアラー（介護者）支援マップ」の改訂 |
| | 家族介護者向け介護技術講座 | 年2回 | 家族介護者を対象に，家族介護者向け介護技術講座の実施 |
| | | 随時 | 介護を支えるグループ等へ「出張介護技術講座」の実施 |
| | ホームヘルパー出張派遣 | 年6件 | 介護保険申請中または介護保険要介護認定を受けている方を対象に2回を限度に無料で公社のヘルパーを派遣。 |
| 認知症サポーター養成講座事業（再掲） | 認知症サポーター養成講座 | 随時 | 地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施（年6回以上），キャラバンメイトの調整・派遣 |
| | 認知症サポーターフォローアップ研修 | 年2回 | 講座の復習，認知症当事者体験や地域見守り訓練の実施 |
| | 認知症サポーターの活躍の場リスト | 随時 | 認知症サポーターになったあとの，地域・施設等での活躍の場リストの配布（年1回更新） |

イ 人材育成事業

「市民相互の助け合いと自立支援のための質の高いサービスの提供を通じてあたたかい地域づくり」を推進するため、協力会員，ボランティアの育成，専門資格の取得を目指す実習生の受入れ，講座，研修会，学習会の開催等，さまざまな「学びの場」を提供し，地域福祉の担い手となる人材育成を行います。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|--------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 協力会員研修延べ参加人数（市民公開講座に参加した市民を含む） | 250人 |
| | ゆうあい福祉セミナーの参加人数 | 10人 |
| | 介護職カフェ（介護技術勉強会），及び福祉専門職スキルアップ研修の延べ参加人数（再掲） | 90人 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ●介護・福祉等関心の高いテーマについて市民向けの研修を検討・開催します。希望者には協力会員の登録につなげます。 ●協力会員に求められるスキルに対応した研修を企画・開催します。そのために，協力会員のニーズを把握します。 ●市民，協力会員等の多くの方が生き生きと参加できる新しい活動を検討し，実施します。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|--------------------------|-------|--|
| ゆうあい福祉セミナー | 年1回以上 | 子育て世代を対象とした福祉の醸成，新たな担い手の発掘・育成セミナー等を開催 |
| 実習生受入 | 随時 | 学生の実習等の受入れ |
| 福祉専門職講師派遣 | 随時 | 公社の専門職を講師として派遣 |
| 協力会員研修・登録ボランティア研修 | 年9回以上 | 支え合いの担い手としての資質向上・ステップアップのための研修会等の実施 |
| 協力会員外部研修派遣 | 随時 | 他の先駆事例・取り組み等を知るための外部研修参加 |
| 介護予防サロン（グリーンクラブ・おなかまクラブ） | 随時 | 高齢者や活動を終了した協力会員でも参加できる社会参加の機会提供，介護予防・地域づくりに向けた支援 |
| 認知症サポーター養成講座事業（再掲） | 随時 | 地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施（年6回以上），キャラバンメイトの調整・派遣 |

| | | | |
|---------------------|-------------------|-------|--|
| | 認知症サポーターフォローアップ研修 | 年2回 | 講座の復習，認知症当事者体験や地域見守り訓練の実施 |
| | 認知症サポーターの活躍の場リスト | 随時 | 認知症サポーターになったあとの，地域・施設等での活躍の場リストの配布（年1回更新） |
| 介護職カフェ（介護技術勉強会）（再掲） | | 年4回以上 | 市内サービス提供事業者向けに開催し，介護技術の向上やサービス事業者間のネットワーク構築を図る |
| 福祉専門職スキルアップ研修（再掲） | | 年2回以上 | 市内サービス提供事業者向けに開催し，知識の向上やサービス提供事業者間のネットワーク構築を図る |

ウ 調査研究開発事業

事業実施により得られた知見を基に福祉ニーズの調査研究開発を行い，地域，行政，関係機関への情報発信を行う等福祉全体の向上に役立てます。

| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|--|--------------|
| | | 実践活動報告数 |
| | 調査実施数（内部調査，実証研究調査，新規・改善事業調査） | 2回 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ● 公社事業のアンケート調査結果の分析を踏まえ業務改善（内部調査），モデル事業を実施しながらの実証研究（実証研究調査），職員から提案があった新規事業等に関する調査（新規・改善事業調査）等，さまざま調査研究を実施します。 ● 関係協議会や実践活動報告会等への参加を促進します。職員が関係機関との協議会や実践活動報告会，事例検討会等に積極的に参加し，公社の取り組み，サービスを地域に情報発信します。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|---------------|------|---------------------------|
| 実践活動報告 | 随時 | 公社が関わり地域で暮らし続ける事例を紹介 |
| 調査研究開発の推進（再掲） | 随時 | 内部調査，実証研究調査，新規・改善事業調査の実施 |
| 協議会等への参加 | 随時 | 調布市及び市内団体等又は関係機関の協議会等への参加 |

(6) 健全な公社運営

ア 法人運営及び組織体制の強化・充実

介護・福祉分野においては、慢性的な人材不足が続いており、公社においても人材確保は急務の課題となっています。平成31年4月から働き方改革関連法が施行されたことに伴い、引き続き時間外労働の縮減、年次有給休暇取得の促進を図り労務管理を徹底していきます。また、同一労働同一賃金（均衡均等待遇）については、令和3年度の法適用に向けて、専門家（社会保険労務士等）の指導・助言に基づき雇用制度の検討を行っていきます。このほか、誰もが働きやすい職場環境の整備等働き方改革への対応を進め、離職防止・採用難の解消に努めていきます。

広報（機関紙・広報紙・ホームページ）については、「伝える」から「伝わる」ということに重きを置き、市民や関係者に、公社の事業・取組をより知っていただくことや、魅力を伝えていくためのあり方を検討し見直していきます。

法人運営においては、令和2年6月に法人総務部門を本部事務所（国領町3-8-1）に移転し、円滑な法人運営に努めていきます。

地域包括支援センター事業については、新たな福祉圏域（8圏域）に対応した地区を担当していくことになり、令和3年度の本格実施に向けて、引継ぎ業務や担当地区北側への相談窓口（拠点）の設置について円滑に進められるよう、行政・関係機関と連携し取り組んで参ります。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|----------------------------|---|--------------|
| 第2次中期 計画 目標・成果 指標 | 労働安全衛生に関する研修実施 | 2回 |
| | 年次有給休暇の取得促進 | 60% |
| | 全職員の所定外労働時間（年間） | 10,000時間 |
| | 主任ケアマネジャーの人数 | 3人 |
| | 全職員の外部研修参加割合 | 50% |
| 目標達成に向けた方針 | ●職員が安心して働ける職場環境の整備に努めます。労務管理のため、次世代育成支援対策推進行動計画（平成28年度～令和3年度）を推進していきます。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 事業内容 |
|-------------------|------|--------------------|
| 会員・ボランティア基盤の拡充 | 随時 | 拡充のための新たな取組みの検討 |
| PDC Aマネジメントサイクル構築 | 随時 | 第2次中期計画及び事業計画進捗の評価 |

| | | |
|--------------------|----|--|
| 制度改正等への対応・検討 | 随時 | 外部研修・会議（Off-JT）を活用した、情報収集。部署間での情報共有・連携強化 |
| 労務管理体制の強化 | 随時 | 次世代育成支援対策推進行動計画の推進（平成28年度～令和3年度） |
| 専門資格の取得の促進 | 随時 | 規程の整備及び計画の策定 |
| 将来を担える職員の育成 | 随時 | 規程の整備及び計画の策定 |
| ITシステム活用による業務効率化 | 随時 | 労務管理システム・電子申請義務化・ホームページ等の検討・見直し |
| 危機管理（リスクマネジメント）の強化 | 随時 | ヒヤリハットミーティング等職員間の情報共有。第三者委員会等による適切な苦情解決手続き。理事会への定期的な報告 |

イ 自主的、自立的経営に向けた財政基盤の強化

訪問介護事業，居宅介護支援事業，デイサービスぷちぼあん事業，それぞれの自主事業の経営管理の強化に向けて，介護保険システムの有効活用，モニタリングシート・月次損益推移表の活用を進めていきます。

基本財産の一部が満期償還となり，買換等の運用が必要となりますが，近年，債券市場においてマイナス金利等の影響により，運用益がほとんど得られない状況が続いています。このことから，外部研修講師の受託，賛助会員の獲得等を通して，運用益以外の自主財源の確保に努めていきます。

| | 項目 | 目標値 令和2年度 |
|--------------------|---|--------------|
| 第2次中期計画 目標・成果指標 | 自主事業の収支（3事業合計） | 収支均衡（±0） |
| | モニタリングシート対策達成率 | 70% |
| | 賛助会員数 | 240人 |
| 目標達成に向けた方針 | <ul style="list-style-type: none"> ● 収支状況を多角的に分析します。自主事業ごとの毎月の収支状況を稼働率，収支比率等さまざまな指標を用い，多角的に分析します。 ● モニタリングシートを活用します。モニタリングシートを活用し，分析結果を担当職員全員が共有しながら収支均衡に向けた効果的な対策を継続します。 ● 寄付金収入・賛助会員収入等の自主財源の確保に努めます。普及啓発事業の市民・会員向けの説明会等を通して，公社事業への理解浸透を図り，会員の拡充や寄付につながるよう広報活動を積極的に行います。 | |

| 事業名 | 実施予定 | 内容 |
|--------------|------|-------------------------------------|
| モニタリングシートの活用 | 毎月 | 毎月の目標設定，収支確認。目標値とのかい離要因分析。効果的な対策の継続 |
| 寄付金収入の拡充 | 随時 | 公社の公益性を伴う事業をわかりやすくPRするため広報を強化 |
| 賛助会員の拡充 | 随時 | 住民参加型事業への理解の浸透を図り，賛助会員数の増を目指す |

令和2年度収支予算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

1. 概要

(単位:千円)

| | 予算額 | 前年度 | 増減 | 備考 |
|----------|---------|---------|-------|----|
| 収入 | 576,058 | 568,799 | 7,259 | |
| 支出 | 576,058 | 568,799 | 7,259 | |
| 収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 前期繰越収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 0 | 0 | |

2. 節科目集計

(単位:千円)

| 勘定科目 | | 予算額 | 前年度 予算額 | 増減 | 備考 |
|------------|-------------------|---------|------------|---------|----|
| 大 | 中 | | | | |
| I 事業活動収支の部 | | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | | |
| 1 | 基本財産運用収入 | 1,459 | 1,186 | 273 | |
| | 1 基本財産受取利息収入 | 1,459 | 1,186 | 273 | |
| 2 | 会費収入 | 379 | 379 | 0 | |
| | 1 賛助会員会費収入 | 379 | 379 | 0 | |
| 3 | 事業収入 | 364,367 | 359,485 | 4,882 | |
| | 1 有償福祉サービス事業収入 | 45,976 | 47,255 | △ 1,279 | |
| | 2 介護保険事業収入 | 101,494 | 105,278 | △ 3,784 | |
| | 3 地域包括支援センター事業収入 | 9,143 | 9,007 | 136 | |
| | 4 軽度生活援助事業収入 | 568 | 558 | 10 | |
| | 5 介護保険認定調査事業収入 | 171 | 171 | 0 | |
| | 6 障害者訪問介護事業収入 | 9,804 | 9,396 | 408 | |
| | 7 受託事業収入 | 197,211 | 187,820 | 9,391 | |
| 4 | 補助金等収入 | 200,954 | 197,026 | 3,928 | |
| | 1 地方公共団体補助金収入 | 200,954 | 197,026 | 3,928 | |
| 5 | 負担金収入 | 6,988 | 8,044 | △ 1,056 | |
| | 1 負担金収入 | 6,988 | 8,044 | △ 1,056 | |
| 6 | 寄附金収入 | 500 | 1,268 | △ 768 | |
| | 1 寄附金収入 | 500 | 1,268 | △ 768 | |
| 7 | 雑収入 | 1,411 | 1,411 | 0 | |
| | 1 雑収入 | 1,411 | 1,411 | 0 | |
| 事業活動収入計 | | 576,058 | 568,799 | 7,259 | |
| 2. 事業活動支出 | | | | | |
| 1 | 高齢者・障害者等支援事業 | 480,078 | 469,797 | 10,281 | |
| | 1 事業費人件費 | 99,889 | 92,928 | 6,961 | |
| | 2 有償福祉サービス事業費 | 61,652 | 62,656 | △ 1,004 | |
| | 3 生活支援コーディネート事業費 | 126 | 153 | △ 27 | |
| | 4 相談事業費 | 1,703 | 1,696 | 7 | |
| | 5 居宅介護支援事業費 | 20,404 | 20,985 | △ 581 | |
| | 6 地域包括支援センター受託事業費 | 63,367 | 50,330 | 13,037 | |
| | 7 見守りネットワーク受託事業費 | 2,740 | 2,740 | 0 | |
| | 8 訪問介護事業費 | 47,076 | 51,286 | △ 4,210 | |

| 勘定科目 | | 予算額 | 前年度 予算額 | 増減 | 備考 |
|-------------------------------|--------------------|---------|------------|---------|----|
| 大 | 中 | | | | |
| | 9 デイサービスぶちぼあん事業費 | 37,849 | 37,620 | 229 | |
| | 10 在宅サービスセンター受託事業費 | 129,269 | 134,886 | △ 5,617 | |
| | 11 市基準通所型サービス受託事業費 | 5,693 | 4,576 | 1,117 | |
| | 12 軽度生活援助事業費 | 568 | 558 | 10 | |
| | 13 障害者訪問介護事業費 | 9,742 | 9,383 | 359 | |
| 2 | 普及啓発・人材育成・調査研究事業 | 8,627 | 8,704 | △ 77 | |
| | 1 普及啓発事業費 | 5,311 | 5,340 | △ 29 | |
| | 2 人材育成事業費 | 3,261 | 3,309 | △ 48 | |
| | 3 調査研究開発事業費 | 55 | 55 | 0 | |
| 3 | 管理費 | 83,367 | 88,729 | △ 5,362 | |
| | 1 管理費人件費 | 66,889 | 70,884 | △ 3,995 | |
| | 2 一般管理費 | 16,478 | 17,845 | △ 1,367 | |
| | 事業活動支出計 | 572,072 | 567,230 | 4,842 | |
| | 事業活動収支差額(A) | 3,986 | 1,569 | 2,417 | |
| II 投資活動収支の部 | | | | | |
| 1. 投資活動収入 | | | | | |
| | 投資活動収入計 | 0 | 0 | 2,417 | |
| 2. 投資活動支出 | | | | | |
| | 1 固定資産取得支出 | 3,986 | 1,569 | 2,417 | |
| | 投資活動支出計 | 3,986 | 1,569 | 2,417 | |
| | 投資活動収支差額(B) | △ 3,986 | △ 1,569 | △ 2,417 | |
| III 財務活動収支の部 | | | | | |
| 1. 財務活動収入 | | | | | |
| | 財務活動収入計 | 0 | 0 | 0 | |
| 2. 財務活動支出 | | | | | |
| | 財務活動支出計 | 0 | 0 | 0 | |
| | 財務活動収支差額(C) | 0 | 0 | 0 | |
| IV 予備費支出(D) | | 0 | 0 | 0 | |
| V 当期収支差額(E) 《(A)+(B)+(C)-(D)》 | | 0 | 0 | 0 | |